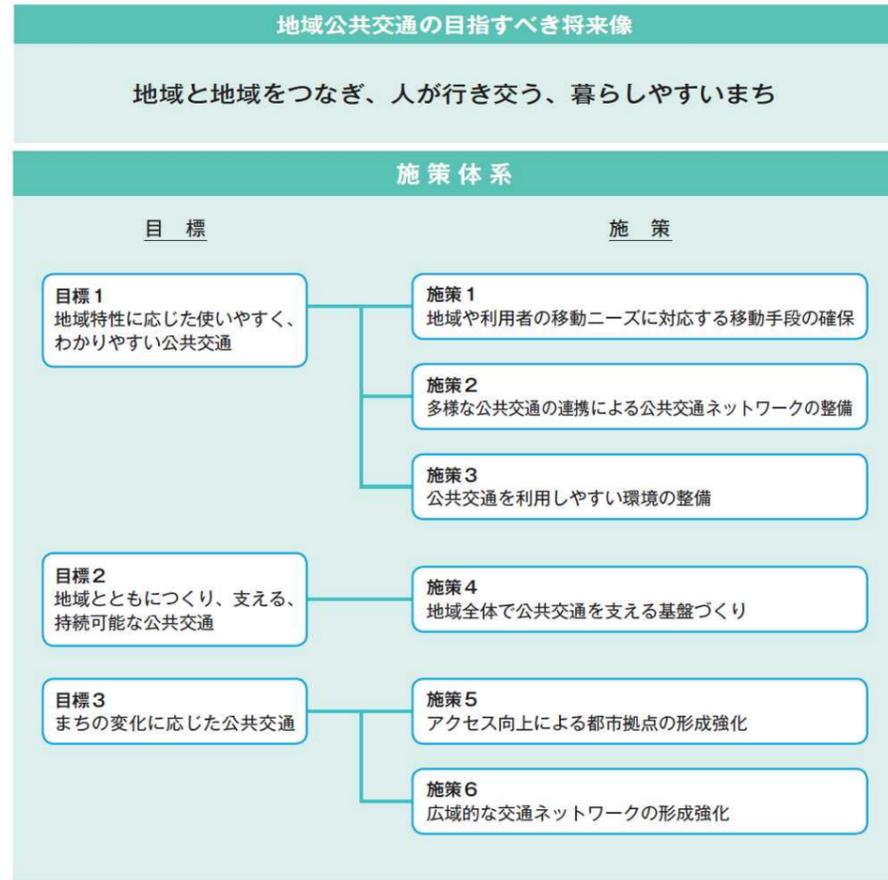


【第1号議案】

資料 1

■新発田市地域公共交通網形成計画 体系図



【第1号議案】

資料 1

【目標2】 地域とともにつくり、支える、持続可能な公共交通								
評価指標	現状値	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
		目標値/実績値						
① 地域における検討支援体制の構築数	4団体 (H28年度)	6団体	7団体	8団体	8団体	8団体	8団体	8団体
	達成状況	x	x					
学校統合の検討を進めている豊浦地区についてはまだ検討体制の構築には至っていないが、五十公野～赤谷地区において、地区ごとに検討体制を立ち上げたため、団体数は前年度より多くなっている。令和元年9月頃に豊浦地区の検討組織を立ち上げる予定である。								
② 路線バス利用者1人当たり運行経費	1,077円/人 (H28年度)	1,070円/人	1,063円/人	1,056円/人	1,049円/人	1,042円/人	1,035円/人	1,028円/人
	達成状況	x	x					
平成29年10月、平成30年4月の運行見直しによって、前年度と比べて運行経費が減少した一方で、利用者数も減少したことから、一人当たり運行経費が高くなった。運行の効率化、利用促進を図り、改善していく必要がある。								
③ コミュニティバス利用者1人当たり運行経費	747円/人 (H27年度)	729円/人	712円/人	694円/人	676円/人	658円/人	641円/人	623円/人
	達成状況	○	x					
新発田市コミュニティバス（菅谷・加治）、川東コミュニティバスともに前年度と比べて運行経費が増加した一方で、利用者数が減少したことで、一人当たり運行経費が高くなった。今後も高校生の人数が減少し、利用者数が減少する恐れがあることから、運行の見直しによって経費の削減を図るとともに、地域との協働による利用促進策を継続して行っていく必要がある。								
④ 公共交通の利活用を推進する年間取組数	4件 (H28年度)	10件	11件	12件	12件	12件	12件	12件
	達成状況	x	x					
松浦地区デマンド乗合タクシーの実証運行を開始したことで、前年度に比べて取組数が増加した。また、川東地区でも昨年度実施できなかった乗り方教室を実施した。将来にわたって地域の公共交通を維持していくためには、今まで以上に地域が危機感を持ち、地域が主体となった利用促進の取組を積極的に進めていく必要がある。								

■評価指標の年度別達成状況

【目標1】 地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通								
評価指標	現状値	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
		目標値/実績値						
① 路線バスの年間利用者数 ※バス事業年度（10月から翌9月まで）	120,371人 (H28年度)	121,175人	121,979人	122,783人	123,588人	124,392人	125,196人	126,000人
	達成状況	x	x					
平成29年10月、平成30年4月の運行見直しによって、市が補助金を交付している対象路線が11路線から7路線に減少しており、利用者数も大幅に減少した。事業者の深刻な運転手不足により、今後も運行の見直しが必要となっている。※目標設定時から状況が変化していることから、目標値の再設定が必要になっている。								
② コミュニティバスの年間利用者数	108,401人 (H27年度)	111,487人	114,572人	117,658人	120,743人	123,829人	126,914人	130,000人
	達成状況	○	x					
H30実績値の内訳は、新発田市コミュニティバス（菅谷・加治）57,917人（前年度比△7,030人）、川東コミュニティバス48,704人（前年度比△7,409人）で、両路線とも高校生の利用者数の減少に伴い、利用者数が減少した。今後も高校生の人数は減少していくと考えられることから、利用ニーズに見合った運行の見直しによる効率的な運行（車両のコンパクト化、運行のスムーズ化）と、運転に不安を感じる高齢者等の利用促進を図っていく必要がある。								
③ 路線バスの見直し地区数	4地区 (H28年度)	6地区	7地区	8地区	8地区	8地区	8地区	8地区
	達成状況	x	x					
学校統合等により路線バスの見直しを行った地区は、菅谷・加治、川東、五十公野・米倉・赤谷、松浦、豊浦の5地区となっている。学校統合の検討が行われている地区を最優先に公共交通の見直しを進めるものの、高齢化が進行する中、既存の路線バスやコミュニティバスの運行を含めた市全域の公共交通網の再構築が急務となっている。								
④ 「バスどこ？」HPへの年間アクセス件数	14,162件 (H27年度)	15,710件	17,259件	18,807件	20,355件	21,903件	23,452件	25,000件
	達成状況	○	○					
バスの遅延が多くなる冬期にアクセス数が増加する傾向にあったが、H29年度、H30年度と年間を通じて平均的に利用されている。昨年度よりもアクセス件数は少なくなっているが、「バスどこ？」の活用が浸透してきているものと考えられる。今後も、遅延情報を随時発信することで、バス利用に係る不安の解消を図り、バスを利用しやすい環境の整備を進めていく。								

【目標3】 まちの変化に応じた公共交通								
評価指標	現状値	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
		目標値/実績値						
① あやめバス（市街地循環）の年間利用者数	80,582人 (H27年度)	80,956人	81,330人	81,704人	82,078人	82,452人	82,826人	83,200人
	達成状況	○	x					
あやめバスの利用者数は、H26年度から減少傾向にあったが、H29年度はH26年度と同程度まで回復した。H30年度も10月までは前年度とほぼ同じ利用者数であったが、少雪の影響もあり、11月以降、利用者数が伸びなかった。そのため、前年度よりも利用者数が減少したが、中心市街地における重要な移動手段であり、利用者数の推移をみながら、運行ルートやダイヤの見直しを行っていく必要がある。								
② 通学における高校生の公共交通利用率	51.0% (H28年度)	52.4%	53.9%	55.3%	56.7%	58.1%	59.6%	61.0%
	達成状況	—	—					
※H31年度（計画の中間評価）、H35年度（計画の最終評価）にアンケート調査を実施して把握する。								

※「評価」欄の○は達成、×は未達成

【第 1 号議案】

別冊資料

新発田市地域公共交通網形成計画

進捗管理シート

(平成 30 年度実績及び今後の取組)

令和元年 8 月

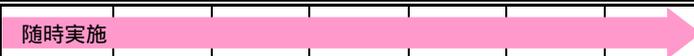
新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 1	市内高校へ通学しやすい運行時間や運行ルートの設定
取組内容	登下校の通学時間帯における市内高校への移動ニーズに対応し、幹線路線については、朝夕の時間帯において限定したバス停のみに停車する高校直通便の導入を検討します。これにより、学生の移動手段の確保を図ります。	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスによる通学について周知するため、各高校を通じて新入生にチラシを配布した。 ・市内各高校の最寄りバスまで運行する「高校通学便」の運行を引き続き行った。 (1)新発田市コミュニティバス:登校...6高校(新発田、新発田商業、新発田農業、新発田南、西新発田、新発田中央)、下校...2高校(新発田農業、新発田南) (2)川東コミュニティバス:登校...6高校(新発田、新発田商業、新発田農業、新発田南、西新発田、新発田中央)、下校...2高校(新発田、新発田商業) ・松浦地区デマンド乗合タクシーを高校生にも利用してもらえよう、「定時定路線」の方向を視野に、登校時のみ「高校生専用便」の実証運行を平成30年12月に行ったが、わずか1名の利用であった。 	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の減少に伴い、コミュニティバスの利用者が減少しており、定期券の売り上げは平成29年度に比べ12%のマイナスとなった。今後も高校生の減少傾向は続くことから、利用ニーズの変化や県立高校の再編に応じた運行内容の見直し(車両等の適正化も含む)により、効率的な運行をしていく必要がある。 ・松浦地区のように、公共交通機関を使った通学に馴染みのない地区では、公共交通を整備しても利用につなげていくことが難しい状況である。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の移動ニーズに基づき、市内高校への登下校に利用しやすく、効率的な運行内容の見直し検討を進める。 ・各地区の公共交通の見直しに当たっては、高校生の利用ニーズを把握し、高校最寄りのバス停に停車する「高校直通便」の導入を検討する。 ・家族による送迎から公共交通機関利用へとつなげるため、各高校を通じた働きかけなどを行っていく。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 2	通院や買い物の往復など利用状況に対応した適切な運行
取組内容	通院や買い物のため、中心市街地への移動ニーズが高くなっています。利用実態と利用者ニーズを把握し、通院、買い物に利用できる時間帯とその復路の利用にも配慮した運行見直しを行います。	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

- ・通院や買い物の行き帰りを考慮したダイヤの見直しに活かすため、赤谷地区において聴き取り調査を行った。
- ・主に通院に利用されている松浦地区デマンド乗合タクシーの利便性を向上させるため、利用者アンケートを実施し、平成30年12月に運行ダイヤの見直しを行った。

取組における課題等

- ・高齢化を背景に、高齢者の移動手段の確保が問題となっている。
- ・高校生の減少に伴い、路線バスやコミュニティバスの利用者が減少傾向にあることから、高齢者にとってより利用しやすい運行内容になるよう、運行形態も含め、各地区の公共交通の見直しを図る必要がある。

今後の取組の方向性

- ・中心市街地の通院や買い物の目的地となる施設への移動は、あやめバスによってアクセスが確保されていることから、あやめバスとの接続を考慮して、コミュニティバス等の運行ダイヤの検討を行う。
- ・高齢者の通院や買い物ニーズを十分把握し、各地区の公共交通の見直しを進める。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 3	新発田市コミュニティバス(菅谷・加治地区)の継続運行
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 菅谷・加治地区住民の日常の移動手段となっている新発田市コミュニティバスの運行を継続していきます。 菅谷地区は高齢化率が高くなっており、ますます公共交通の必要性が増していくものと考えられます。新発田市コミュニティバスの運行受託団体であるNPO法人七葉を通じてバスの利用状況や住民の移動ニーズを把握し、地域の方が利用しやすい時間帯の設定やルート改善を行います。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> 地元で立ち上げたNPO法人七葉に運行業務を委託し、新発田市コミュニティバスの継続運行を行った。 安全安心の運行のため、経年劣化に伴う中型路線バス車両の入替計画に基づき、1台の入替を行った。 地域の子どもの通学時等の安全性を確保するため、スクールバスの運行や放課後子ども教室への送迎を行った。 	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> 手帳提示の利用者数増加に加え、地元高校生の人数減少により、利用料収入が減少しており、今後、収支の悪化が見込まれることから、令和3年4月の小学校統合に向け、利用ニーズに見合った効率的な運行の見直しが必要となっている。 【手帳提示者の利用割合の推移】 H19～21 / 10%未満 H22以降増加傾向 H28 / 12.3%、H29 / 13.9%、H30 / 16.8% となっている。 【高校生の利用状況】 H28 / 218人 H29 / 202人(前年度比 16人) H30 / 170人(前年度比 32人) となっており、通学便における利用者数の減少が今後も見込まれる。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> アンケート等により地域ニーズを把握し、学校統合等も考慮した、利用実態に見合った運行内容の見直し(運行のスリム化)を行うとともに、車両入替計画を見直し、少子化を見据えた適正規模車両に入替えることで、事業費の削減を図る。 【参考】 高齢化率 / 市全体29.6%に対して、菅谷地区40.7%、加治地区25.7%(H27国勢調査結果) 車両台数 / 中型バス4台、マイクロバス3台

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時見直し実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 4	川東コミュニティバスの継続運行
取組内容	<p>・川東コミュニティバスの運行については、川東コミュニティバス検討部会において、平成29年度以降の基本目標や目標値を設定し、利用状況や移動ニーズに応じた時間帯の設定やルートの変更を行い、「地域の足」として将来へ引き継ぐ運行を維持していくこととしています。</p> <p>・高校生の自主通学を進めるため、高校生に対応したパンフレットの作成・配布、定期券の導入などによりバスをより利用しやすくしていきます。</p> <p>・高齢者の方々の公共施設や医療機関等への移動手段を確保するため、利用者アンケートを実施し、その中で把握した高齢者のニーズに対応した運行時間帯やルートの見直しを行います。また、わかりやすい時刻表の作成などを行います。</p> <p>・川東コミュニティバス検討部会と一緒に利用促進事業を行います。</p>	

平成30年度取組実績 具体的に記載してください。

<p>・地域住民で構成される川東コミュニティバス検討部会と協議を行いながら、新潟交通観光バス株式会社に運行業務を委託し、川東コミュニティバスの継続運行を行った。</p> <p>・川東コミュニティバス検討部会において、高校生の自力通学率を上げるため、中学3年生に回数券と乗り方案内を配布するとともに、乗り方教室の実施や地域のイベントにおけるバスの乗り方等を示したパネル展示などの利用促進事業を行った。</p>
--

取組における課題等

<p>・乗車人数は目標260人/日に対して実績202.1人/日(前年度比 30.7人)、運賃収入は目標27,500円/日に対して実績18,198円(前年度比 1,987円)となっており、目標達成は難しい状況である。目標達成に向けた更なる利用促進の取組と利用につながらない要因を把握する必要がある。</p> <p>・令和2年度以降の運行に向け、現在のバス運行の検証を行い、今後の運行の方向性を決定する必要がある。</p>

今後の取組の方向性

<p>・利用実態を把握するとともに、平成26年度からの利用実績を踏まえながら、利用実態に見合った効率的な運行内容について、川東コミュニティバス検討部会とともに検討を行う。</p> <p>・地域の公共交通を地域で守るという意識をもってもらい、「乗り方教室」も含め、地域住民自らの取組につなげる。</p>

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	毎年度検証・見直しを行う		継続又は見直し				
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 5	東中学校区の公共交通の見直し
取組内容	<p>・東中学校区を運行している新谷線、東赤谷線は、小中学生の通学に利用されています。平成30年4月の東小学校の開校に向け、学校統合後の通学に利用しやすいよう地域の方や交通事業者と検討協議を行い、経路の変更やダイヤの見直しを実施します。</p> <p>・東中学校区公共交通・通学支援検討委員会を中心として、東中学校区の公共交通の確保に向けた協議・意見交換を継続して行います。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・五十公野～赤谷地区では日常生活の移動手段と通学手段を担う路線バスの運行を、松浦地区では市で初となるデマンド乗合タクシーの実証運行を行った。</p> <p>・五十公野～赤谷地区では、引き続き地域と意見交換を行うとともに、除雪等に関する要望書を県へ提出し、冬期間の通学の安全確保に努めた。</p> <p>・赤谷地区住民にとって利用しやすい公共交通の整備に活かすため、平成30年8月に赤谷地区生活交通に関する調査を行った。また、「ボランティア送迎」の代替運行について検討を行った。</p> <p>・松浦地区では、乗り方教室を実施するとともに、利便性向上のため、利用者アンケートを実施し、平成30年12月にダイヤの見直しと増便を行った。また、地域の方の意見を踏まえ、平成31年4月の運行ルート見直しに向け協議等を行った。高校生にも利用してもらえる公共交通とするため、高校生アンケートを実施し、高校生専用便の実証運行を平成30年12月に行ったが、わずか1名の利用であった。</p>	

取組における課題等
<p>・「ボランティア送迎」の代替として、平成31年4月から地域おこし協力隊員が送迎業務を担っているが、地域付きの隊員が見つからない状況が続いており、地域交通の抜本的な見直しが必要である。</p> <p>・バス事業者の深刻な運転手不足等により、路線の維持が困難となっており、路線の廃止という事態に備えて、地域とともに継続して公共交通のあり方を検討していく必要がある。</p> <p>・松浦地区デマンド乗合タクシーが地域住民の利用につながらない要因を把握し、使いやすいデマンド型交通を確立する必要がある。</p>

今後の取組の方向性
<p>・東中学校区(五十公野～赤谷地区)の公共交通・通学支援については、当面は事業者路線を活用することとなったものの、運転手不足等により事業者路線の維持も困難な状況となっていることから、地域住民等や交通事業者と継続して協議・意見交換を行い、生活交通の維持確保に向けて検討を進める。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	優先的に検討・実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 6	各地区の公共交通の見直し
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「見直し・整備の進め方」に基づき見直しを進めます。 ・公共交通空白域拡大や地域内交通が必要な地域において、地域住民で構成される組織を設置し、地域主体で取り組む交通サービスの検討を行います。 ・住民で構成される検討組織とともに、既存の鉄道や路線バスの活用、地域が運行主体のコミュニティバスやデマンド交通の導入等により、公共交通の見直しを進めていきます。 ・「小・中学校の望ましい教育環境に関する教育方針」に基づき、地域との協議において学校統合の検討が進む地区については、児童・生徒の安全安心な通学環境を確保するため、各地域の公共交通等の実情を踏まえ、通学支援を含めた最も効率的で利便性の高い公共交通の見直し、整備を地域とともに検討していきます。 ・サービスの向上や利用者の拡大を検討するなど、地域主体の公共交通の維持・運営を図ります。 	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

【加治川地区】

・地域で立ち上げた「加治川地域交通に関する研究会」に参画し、地域交通のあり方を検討するため、通院や買い物などの交通手段に関するアンケート調査実施に向けた検討や、アンケート調査結果について検討した。

【豊浦地区】

・令和3年4月の小学校統合に向け、豊浦地域統合小学校検討委員会において、通学支援と公共交通を一体的に捉えた検討を進め、通学支援とは別に公共交通の検討を進めることとした。地域の公共交通見直しに向け、日常生活の移動手段等を把握するためのアンケート調査を実施するため、区長会役員会と協議を行った。

取組における課題等

・今後も路線バス利用者が減少し、収支状況の更なる悪化が懸念される中、路線バスの廃止に代わる移動手段を確保する必要がある。

・既存のコミュニティバス路線についても、利用ニーズに見合った効率的な運行内容等への見直しが必要となっている。

・自家用車が運転できることを理由に、公共交通の必要性が低い地域が多いのが実態だが、高齢化が進行する中、将来的な動向等を見据え、各地区の見直しを進めていく必要がある。

・高齢化が進む中、公共交通では対応できない移動ニーズについては、福祉分野との連携と強化し、地域による「互助による輸送」を交通ネットワークを補完する一つの手法として捉え、公共交通とあわせて検討していく必要がある。

・公共交通の整備にあわせて、公共交通を利用してもらい取組を地域とともに検討し、地域が主となって実施していく必要がある。

・公共交通運営に係る財政負担について住民にわかりやすく伝え、公共交通サービスの水準の明確化と、収支状況や運行状況から運行の適正化を図る必要がある。

今後の取組の方向性

【加治川地区】

・加治川地域交通に関する研究会において、検討を継続する。

【豊浦地域】

・平成31年4月に地域の全世帯を対象にしたアンケート調査を実施する。

・アンケート調査結果を踏まえて、地域住民等で構成する公共交通の検討組織を設置し、平成33年4月の統合小学校開校にあわせて公共交通の整備ができるよう検討を進めていく。

(菅谷・加治地区、川東地区、東中学校区については、個別の事業に掲載)

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 7	コミュニティバス運賃の見直し
取組内容	<p>・コミュニティバスの運行においては、利便性と採算性のバランスの取れた持続可能性が求められています。市民負担の公平性の観点や民間路線バスの運賃体系を考慮し、運賃制度の見直し検討を行います。</p>	

平成30年度取組実績 具体的に記載してください。

・現行の運賃を継続
 [市内コミュニティバス] 地域内 地域内 100円、地域内 地域外 200円 手帳提示で無料
 [デマンド交通] 地域内 地域内 200円、地域内 地域外 300円 手帳提示で半額

取組における課題等

・路線バスとコミュニティバスの運賃格差について、地域から是正の要望がある。
 ・運行経費は増加傾向にあるものの、周辺地区では高校生の減少に伴い収入が減少傾向にあり、コミュニティバスの運行維持が厳しい状況になってきている。
 ・利用実態及び収支状況等をみながら運行内容や運賃の見直しを行う必要があるが、統一的な収支に係る見直し基準がない。

今後の取組の方向性

・既存のコミュニティバス路線を効率的な運行に見直しを図り、利用状況等の推移をみながら、コミュニティバス等を維持していくため、必要に応じて運賃の見直し検討を行う。
 ・コミュニティバス等の運行が継続していけるよう利用実態及び収支状況等から運行の適正化水準設定の検討を進める。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	コミュニティバスの検証・見直しに応じて検討 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 8	高校生や高齢者への運賃割引制度の検討と障がい者割引運賃の実施
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・中心交通拠点である新発田駅から距離が離れている地域では、路線バスの運賃が高く、定期的に通院等でバスを利用する高齢者にとって経済的な負担が大きくなっているのに加え、高校生の自主通学を阻む原因ともなっています。また、公共交通の見直しを行い、コミュニティバスを導入している地域との間で運賃格差が生じています。そのため、市街地中心部から離れた地域の高齢者や高校生が日常的にバスを利用しやすいよう運賃の割引制度の検討を行います。 ・障がい者の社会参加を促進するため、路線バス運賃の割引とあやめバス、新発田市コミュニティバス、川東コミュニティバス運賃の無料化を引き続き実施します。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>【障がい者割引運賃】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あやめバス、新発田市コミュニティバス、川東コミュニティバス運賃の無料化を実施した(継続)。 ・松浦地区デマンド乗合タクシーでは、路線バス運賃の割引制度を下回らないよう利用料金を半額とした。 路線バス運賃の割引制度 障害者手帳所持者 本人 割引率50% ほか <p>高校生や高齢者の割引制度及びコミュニティバスと路線バス運賃の格差是正については、各地区の公共交通の見直しを最優先としていることから具体的な検討は行っていない。</p>	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスについては、高校生の減少に伴い収入が減少傾向にある一方で、手帳提示による利用が増えており、今後収支の悪化が見込まれる。 ・コミュニティバスと路線バス運賃の格差是正については、小戸地区から地域要望があがっている。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・バスの運行を将来にわたって維持していくためには、採算性、収支バランスを考慮した運賃設定も重要となっており、[事業1-7 コミュニティバス運賃の見直し]とあわせて、検討を進めていく。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 9	高齢者運転免許証返納支援事業の継続実施
取組内容	・高齢者が自家用車からバスへと交通手段を転換することは、高齢者事故防止等の観点から重要であることから、高齢者運転免許証返納支援事業を引き続き行います。	

平成30年度取組実績 具体的に記載してください。

平成25年4月1日以降に運転免許証を自主返納または更新しないで失効した65歳以上の方を対象に、下記 ~ のいずれか(5,000相当)を支援。

いきいきスタンプお買物券	133件	
タクシー券	113件	
コミュニティバス回数利用券	26件	
路線バス回数券	7件	計279件

取組における課題等

平成25年の事業開始以降から申請者数は増加しており、順調に実施されている。この事業は、免許返納のきっかけづくりとして実施しているが、免許返納後の包括的な生活支援を含めたアフターフォローが必要だと考える。

今後の取組の方向性

今後も事業を継続して行うとともに、高齢者の交通事故の減少を図るため、広報しばたや高齢者の交通安全教室等で引き続き制度周知を行う。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 10	スクールバスの運行と定期券の購入補助
取組内容	・小・中学生が安心安全に通学できるよう、新発田市通学支援基準に基づきスクールバスの運行や定期券の購入補助を進めていきます。	

平成30年度取組実績 具体的に記載してください。

【通年支援】

- ・市スクールバス...二葉小学校(1・2年生)、東小学校(五十公野地区)、佐々木小学校、加治川小学校
- ・スクールバス(事業者委託)...東小学校(松浦地区)、東中学校(松浦地区)
- ・定期券購入補助...東小学校(丑首、米倉・赤谷地区)、東中学校(米倉・赤谷地区)
- ・コミュニティバスのスクールバス発行...川東小学校、菅谷小学校、七葉小学校、七葉中学校

【冬季支援】

- ・市スクールバス...二葉小学校、加治川小学校(箱岩)、佐々木中学校(鳥穴・砂山)
- ・スクールバス(事業者委託)...佐々木小学校、中浦小学校、米子小学校、佐々木中学校(佐々木3・4・5区、大正通り)、紫雲寺中学校(二ツ山、人橋、真野原外、河岸場)、加治川中学校
- ・定期券購入補助...東中学校(米倉・赤谷地区)、紫雲寺中学校(藤塚浜)
- ・コミュニティバスのスクールバス発行...川東小学校、菅谷小学校、七葉小学校(蔵光・早道場の下校)、七葉中学校、川東中学校
- ・PTA運行バスへの補助...豊浦中学校
- ・タクシー借上...七葉小学校(茗荷谷)、紫雲寺小学校(大島地区の1・2年生)

取組における課題等

- ・バス乗降場所の安全確保のため、道路管理者等との連携を図り、改修等が必要な箇所については、優先順位を上げてもらい、より安全な乗降場所の確保に繋がっていきます。
- ・冬期間の除雪対応についても、道路管理者等との連携を図りつつ、乗降場所の除雪や降雪等による遅延の際の対応など、学校・地域・PTAとの協力連絡体制の強化を図っていきます。

今後の取組の方向性

- ・望ましい教育環境の実現による学校統合に伴う通学支援では、スクールバスの運行だけでなく、既存の公共交通の活用や地域との協働による公共交通の検討を進めていくこととします。直近では、豊浦地区・七葉中学校区の統合小学校の統合に向けて検討を進めます。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 11	廃止代替路線の検討、見直し
取組内容	<p>・廃止代替路線バスは、収支の悪化等により、施策上必要と認めたものに限って、市が運行補助をし、路線の維持を行っています。近年、利用者数が減少し、必要とされる公共交通に変化が生じていることから、その必要性や今後のあり方について路線ごとに検証し、交通事業者と運行について検討・協議を行いながら改善していきます。</p>	

平成30年度取組実績 具体的に記載してください。

・事業者が運行する廃止代替路線の減便及び廃止の申し出に対応した。

【平成31年4月1日から】

- ・飯島線 / 減便(往復4便 往復2便)
- ・赤谷六軒町線 / 減便(新発田駅方面行きの最終便1便を減便)
- ・新谷線 / 廃止(廃止時期を3月末 9月末に延長)

取組における課題等

- ・見直し路線の利用状況や運行欠損額の推移等をみながら、継続して運行内容の見直しを図り、市の財政負担軽減を図る必要がある。
- ・事業者路線の今後の運行について事業者と十分対話し、市全体の交通ネットワーク整備の方向性を検討していく必要がある。

今後の取組の方向性

- ・新谷線 登下校に活用している便もあることから、「赤谷六軒町線」を増便する方向で、令和元年10月以降の運行内容について交通事業者、阿賀町と協議を進める。
- ・その他路線 事業者の意見等も踏まえながら、利用状況や運行欠損額の推移等から運行の見直しを進める。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	各地区の公共交通の見直しにあわせて検討・見直しを行う 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	2	多様な公共交通の連携による公共交通ネットワークの整備
事業	2-1	鉄道との接続を考慮したあやめバス、コミュニティバス、路線バスのダイヤ改正
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高校への通学を中心に、市外へ行くための地域から駅へ向かう移動ニーズや、駅から市内の目的地へ向かう移動ニーズがあり、市内外の移動の円滑化のためには、鉄道との乗継ぎを考慮したバスのダイヤ設定が必要となっています。 ・鉄道のダイヤ改正に併せ、あやめバス、コミュニティバス、路線バスのダイヤ改正を行い、鉄道との乗継ぎが可能な運行便の設定や待合時間の短縮を図ります。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・JR東日本新潟支社からの情報提供により、鉄道のダイヤ改正によるあやめバス・新発田市コミュニティバス・川東コミュニティバスとの乗り継ぎの影響を確認し、運行ダイヤを現行どおりとした。</p>	

取組における課題等
<p>・朝夕の通勤・通学時間帯において、鉄道への乗継ぎニーズがある。</p>

今後の取組の方向性
<p>・鉄道のダイヤ改正に応じ、コミュニティバスの運行ダイヤの見直しが必要かどうか検討し、鉄道との乗継ぎが可能となるよう見直しを行う。</p> <p>・動態調査などの結果から、各駅における乗継ぎのニーズを把握する。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	鉄道のダイヤ改正に応じて実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け	
目標	1 地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	2 多様な公共交通の連携による公共交通ネットワークの整備
事業	2-2 あやめバスとの接続を考慮したコミュニティバス、路線バスのダイヤ設定
取組内容	・地域から市街地内の各施設へ移動するには、コミュニティバスや路線バスとあやめバスとの乗継ぎが必要となっていることから、各バス路線の相互の乗継ぎに配慮したダイヤ設定を行い、待合時間の短縮を図ります。

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・あやめバスとの乗継ぎ時間を考慮して、新発田市コミュニティバス・川東コミュニティバス・松浦地区デマンド乗合タクシーの運行ダイヤを設定している(継続)。</p>	

取組における課題等	<p>・あやめバスとコミュニティバス・路線バスは新発田駅でネットワークが結節しているが、一部の便では、乗継ぎの待ち時間が長く、乗継ぎの利便性が低い状況にある。</p>
-----------	---

今後の取組の方向性	<p>・コミュニティバスの時刻表改正や各地区の公共交通の見直しにおいては、新発田駅において、あやめバスとの乗継ぎが可能なダイヤ設定を検討する。</p>
-----------	---

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	バス路線の見直しに応じて実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	2	多様な公共交通の連携による公共交通ネットワークの整備
事業	2 - 3	地域をつなぐコミュニティバスや路線バス同士のダイヤ設定
取組内容	<p>・路線バスやコミュニティバスを乗り継いで通学する高校生や観光施設等を訪れる観光客などの移動の円滑化を図るため、地域間の移動ニーズに配慮し、相互の乗継ぎを考慮したバス路線のダイヤ設定を検討します。</p>	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

・新発田市コミュニティバスでは「七葉中学校前」バス停、川東コミュニティバスでは「川東小学校」バス停をコミュニティバス同士の乗継拠点として設定し、乗継ぎが可能なダイヤを設定している(継続)。

取組における課題等

・川東コミュニティバスの利用者からは、路線バスの木崎線との乗継ぎについて考慮を求める声がある。

今後の取組の方向性

・コミュニティバスや路線バスのうち広域的な移動を担う路線、沿線に利用者の多い施設が立地する路線については、その利用者の移動ニーズに応じて、コミュニティバスや路線バス同士の乗継ぎが可能な検討する。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	バス路線の見直しに応じて実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	2	多様な公共交通の連携による公共交通ネットワークの整備
事業	2 - 4	利便性向上に向けた鉄道事業者への改善要望活動の実施
取組内容	・鉄道との乗継ぎ利便性の向上のため、鉄道事業者への改善要望活動を継続して行います。	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>○新潟県鉄道整備促進協議会 ・ダイヤ改正時における事前の情報提供を受けれるよう、JRに対し要望活動を実施。3月のダイヤ改正に合わせ、事前に情報提供を受けている。</p>	

取組における課題等
<p>市内を循環するバスやコミュニティバスのダイヤ見直しに当たっては、白新線・羽越本線のダイヤ等を考慮し、電車からバス等への乗り継ぎを円滑にする必要がある。</p>

今後の取組の方向性
<p>今後もJRから事前の情報提供を受けれるよう要望を継続するとともに、「事業6-4 羽越本線の高速化に向けた要望活動の実施やシンポジウムの開催支援」とあわせて、協議会事務局(新潟県)に対して要望内容の提案などの働きかけを行う。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画							
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事業	3-1	バス待合所の設置推進とバス待合所等設置事業補助金制度の見直しの検討
取組内容	<p>・バス利用が少ない理由として「雨雪の中でのバス待ち」が挙げられており、待合環境の改善が課題となっています。バス利用者の利便性向上のため、バス待合所等設置事業補助金制度により、自治会が行うバス待合所の設置、増改築、改修又は修繕に係る対象経費の一部を補助していきます。また、補助金の対象となっていないベンチなどの設置要望も多いことから、補助金制度の見直しを検討します。</p> <p>・中心市街地においては、待合所を設置するスペース等がないことから、バス停付近の事業者等の協力により待合環境の充実を図ります。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・バス利用者の利便性を向上するため、バス待合所等設置補助金制度により、自治会等が行うバス待合所の設置に係る対象経費の一部を補助した。</p> <p>【実績】 新築1件 スクールバス待合所の新設(あやめ児童広場内)</p> <p>・翌年度の補助制度の活用について、市内の全自治会等に対し意向確認を実施した。</p>	

取組における課題等
<p>・補助対象経費の拡大や補助を希望する自治会の増加に伴い、財政負担の増加が懸念される。</p> <p>・待合所の設置が難しい中心市街地については、事業者等に待合スペースの提供やベンチの設置などの取組に協力してもらえるような仕組みづくりを検討する必要がある。</p>

今後の取組の方向性
<p>・現行の補助制度による自治会等の待合所等設置推進を継続して実施する。</p> <p>・補助金制度の見直しによる影響や中心市街地における事業者等の意向を確認し、待合環境充実に向けた取組について継続して検討を行う。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事業	3-2	バリアフリー車両の導入促進と導入車両の検討
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの多くは、乗降ステップの段差が大きく、高齢者等がバスを利用する際の大きな障害となっています。高齢者等に配慮し、交通事業者と連携、協力を図りながら乗降しやすい低床型車両の導入や更新を随時行います。 ・また、地域内路線等への導入に当たっては、利用状況や道路状況に応じた車両選定を行います。 	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

- 【新発田市コミュニティバス】
- ・H30年8月に実施したバス入替において、バリアフリー法に適合した車両を選定した。
- ・令和元年8月に予定しているバス入替において、バリアフリー法に適合した車両を選定した。
- 【松浦地区デマンド乗合タクシー】
- ・道路状況に応じて、バスではなくワゴン車両で運行している(継続)。

取組における課題等

- ・障がいのある方の利用率が伸びており、高齢者をはじめ、誰もが乗りやすい車両の選定が必要となっている。

今後の取組の方向性

- ・バス入替においては、バリアフリー法に適合した車両を選定する。
- ・バスの入替に当たっては、利用実態や道路状況等に応じた適正な規模の車両とし、財政負担も考慮しながら計画的な入替を行う。
- ・車両の経年劣化により不具合が多くなっているあやめバス車両の入替について検討する。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事業	3-3	市内公共施設と連携したデジタルサイネージを活用した情報発信
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新発田市役所(ヨリネスしばた)や新発田駅前複合施設(イクネスしばた)では、施設内のデジタルサイネージを活用し、あやめバスの運行情報を発信しています。引き続き情報発信を行い、バス利用者の不安感の解消や利便性の向上を図ります。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・前年度に引き続き、新発田市役所(ヨリネスしばた)と新発田駅前複合施設(イクネスしばた)のデジタルサイネージに、「バスどこ?」ホームページを表示させることにより、バスの運行情報を発信した。 ・「バスどこ?」ホームページの編集機能を活用し、随時、バスの遅延や代車運行などの情報を発信した。 	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルサイネージによる運行情報の発信を行っている施設では、待合環境が向上している。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタルサイネージの活用を継続する。 ・「バスどこ?」ホームページを活用し、運行情報発信の充実を図る。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事業	3 - 4	「バスどこ？」の対象路線拡大とシステムの再構築
取組内容	<p>・バスは渋滞や天候等の影響により遅延が生じやすいことから、バス待ち時の不安の解消を図るため、あやめバス路線を対象として、バスの現在位置をホームページに表示する「バスどこ？」による情報発信を実施しています。更なる利便性の向上と不安の解消を図るため、対象路線の拡大や時刻表の検索機能の付加といった「バスどこ？」のシステムの再構築を検討します。</p>	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

- ・前年度に引き続き、「バスどこ？」による情報発信を行った。
- ・「バスどこ？」ホームページの編集機能を活用し、随時、バスの遅延や代車運行などの情報を発信した。

取組における課題等

- ・新発田市総合健康福祉センターの施設管理方針に応じた専用端末の移動の検討が必要となっている。
- ・運行時の振動等で機器に不具合が生じることがあり、機器の改良等が必要となっている。
- ・対象路線の拡大や新規機能の付加に当たっては、期待される効果や費用、財政支援制度の活用を検討が必要である。

今後の取組の方向性

- ・現行の取組を継続する。
- ・新発田市総合健康福祉センターの機能移転を見据え、専用端末の新たな設置場所の選定に向け、バス停や付近の施設の利用状況、設置に適した環境などから候補地の検討を行う。
- ・国の「標準的なバス情報フォーマット」活用の方向を検討し、「バスどこ？」の対象路線の拡大について検討する。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	バス路線の見直しに併せて対象地域の拡大を検討 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事業	3 - 5	バス停案内表示の充実と公共交通ガイドマップの作成
取組内容	<p>・バスを利用しない理由として「時刻表や運行ルート等がわからない」という意見が多くあることから、バスや鉄道を含めた地域全体の公共交通を対象とし、それぞれの時刻表や運行ルート、運賃、乗継ぎ等の情報をわかりやすく紹介する「公共交通ガイドマップ」やバス停の案内表示の作成を行います。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・平成29年度に作成した「あやめバス乗り方ガイド」を活用し、松浦地区、川東地区住民を対象としたバスの乗り方教室において配布・説明を行った。 ・新潟県IT&ITS推進協議会の「調査研究事業」を活用して、経路探索サイトへのコミュニティバス情報掲載データを作成した。</p>	

取組における課題等
<p>・各地区の公共交通の見直しや既存のコミュニティバスの運行内容の見直し検討を行っており、市内の公共交通網が大きく変化する可能性があることから、市内全域を対象とする総合的なガイドマップの作成は、現段階では難しい状況にある。</p>

今後の取組の方向性
<p>・市内全域を対象とする総合的なガイドマップの作成については、各地区の見直しやコミュニティバスの運行内容の変更の時期を踏まえ、市内全域の見直しがある程度進んだ段階で検討する。 ・当面の間は、各地区のコミュニティバス・路線バスとあやめバスの乗継ぎを紹介するなど、各地区に応じた利用ガイドを発行していく。 ・経路探索サイトにコミュニティバスの情報データを掲載し、バス利用者の利便性向上を図る。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	バス路線の見直しに併せて実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事業	3 - 6	地域主催の乗り方教室の開催
取組内容	<p>・「乗り方がわからない」「乗継ぎ方法がわからない」といった不安がバスを利用しない要因の一つとなっています。そのため、乗り方教室を開催し、公共交通の魅力や必要性、乗り方など日常生活の中で公共交通について考える場を提供することで、公共交通の利用促進を図ります。</p>	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

- ・松浦地区デマンド乗合タクシー「まつうら号」運行エリアの住民を対象に、まつうら号とあやめバスの乗り方教室を実施した。(平成30年10月30日(火曜日))
- ・上三光自治会の住民を対象に、川東コミュニティバスとあやめバスの乗り方教室を実施した。(平成30年11月26日(月曜日))

取組における課題等

- ・川東地区については、川東コミュニティバス検討部会を通じて、乗り方教室の実施について地域に働きかけを行っていく必要がある。
- ・乗り方教室の参加によりコミュニティバス等の利用につながったのか効果を検証する必要がある。

今後の取組の方向性

【川東コミュニティバス】

- ・老人クラブと連携した取組の方向性について検討を進める。
- ・過去の乗り方教室参加者を対象にアンケートを実施し、効果を検証するとともに、利用につながっていない場合は、その原因等について把握し、乗り方教室のやり方やバス運行内容等の見直しにつなげていく。

【松浦地区デマンド乗合タクシー】

- ・松浦地区公共交通協議会と連携して進め、あやめバスの乗り方教室も含めた内容で計画、実施する。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け	
目標	1 地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	3 公共交通を利用しやすい環境の整備
事業	3 - 7 ICカード導入の検討
取組内容	・交通系ICカード(Suica等)は、小銭の用意等が不要となり支払いがスムーズになることや、乗降データの収集による詳細な利用実態の把握が期待できることから、車両の入替に併せてシステムの導入を検討します。

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
未実施	

取組における課題等
・ICカード導入については、特に学生からの要望が高いが、費用対効果を十分検討する必要がある。

今後の取組の方向性
・他市の導入効果等をみながら、継続して検討を進める。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画 (H29見直し)		各地区の公共交通の見直し状況に応じて検討 					
見直し後		各地区の公共交通の見直し状況に応じて検討 					

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4-1	ノーマイカーデーの周知・啓発
取組内容	ノーマイカーデー等の周知・啓発により、公共交通利用のきっかけを作り、自家用車から公共交通機関への利用を促すとともに、環境負荷の低減につなげます。	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>通勤距離4km未満の平均実施者数: 約216人(対象者の約41%) 通勤距離4km以上の平均実施者数: 約122人(対象者の約18%)</p> <p>平成30年度ノーマイカーデー平均実施者数: 約338人(対象者の約29%)</p> <p>なお、上記の結果は報告書未提出の一部の課等を除く結果である。</p>	

取組における課題等
<p>ノーマイカーデー実施者数の割合が前年度と比べてもほぼ変化がないため、実施者を増やしていく必要がある。</p>

今後の取組の方向性
<p>ノーマイカーデーのさらなる周知啓発を行う。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

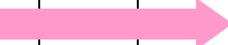
新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4-2	商店街等と連携した取組の検討
取組内容	<p>・公共交通の活性化により中心市街地や地域に人の流れを生み出すため、地域の商店街・商業施設や市内観光施設と連携し、公共交通によるアクセス方法の周知や時刻表の設置、バス回数券の贈呈といった、利便性の向上や利用促進を図る取組を検討します。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・商店街にある薬局、まちなかの観光休憩処たまり駅や商業施設内にあやめバスの時刻表を設置した(継続)。</p>	

取組における課題等
<p>・公共交通機関利用に不安を感じている高齢者等が多いことから、周辺地区からまちなかへの人の流れを作り、安心してまちなかで買い物等ができるよう、従前の時刻表設置場所以外で設置効果がある場所を検討し、簡単な乗り案内ができるような協力体制を築いていく必要がある。</p>

今後の取組の方向性
<p>・商店街や商業施設、市内観光施設との連携の可能性について検討を進める。 ・新発田信用金庫で検討が進められている、運転免許証を自主返納された方へコミュニティバス回数利用券を贈呈する取組の支援を行う。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画		あやめバスの検証・見直しに応じて検討 					
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4-3	車内・車外広告の募集やバス停のネーミングライツの検討
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の維持に向けて収入を確保するとともに、情報発信手段として地域によるバスの活用を推進するため、音声広告や車内・車外広告の募集を引き続き行います。また、バス停名に施設・店舗名等を付けるネーミングライツの検討を行います。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>【車内・車外広告の募集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報しばた及び市ホームページで募集を行った。 (継続) 5件 (新規) 0件 	

取組における課題等	<p>【車内・車外広告の募集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ここ数年、継続掲載のみで新規の応募がない。 <p>【ネーミングライツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> 最寄りの施設名称とバス停名称が一致していないものも見受けられ、わかりやすい名称への変更について要望がある。
-----------	---

今後の取組の方向性	<p>【車内・車外広告の募集】</p> <ul style="list-style-type: none"> 収入確保のため、引き続き、音声広告や車内・車外広告の募集を行う。 広報しばた及び市ホームページのほか、市内事業者等に個別に働きかけを行う。 他市の状況等を把握し、広告掲載料の見直しについて検討を進める。 <p>【ネーミングライツ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ネーミングライツの有効性などについて検証するなど、引き続き検討を行う。
-----------	---

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施（ネーミングライツは車内・車外広告の募集状況に応じて検討）						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4 - 4	地域住民の主体的な組織づくりや活動の支援
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通の検討、維持を担う住民組織の構築を支援します。 ・住民組織の主体的な活動を支援します。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>【菅谷・加治地区】NPO法人七葉 / 理事会や総会における利用状況等の資料提供を行った。 【川東地区】川東コミュニティバス検討部会 / 運行内容等の検討を行う会議開催や利用促進などの活動支援を行った。 【松浦地区】松浦地区公共交通協議会 / 役員会や総会開催、松浦地区デマンド乗合タクシー運営等事務、利用促進などの活動支援を行った。 【加治川地域】加治川地域交通に関する研究会 / アドバイザーとして参加し、地域組織の主体的な活動を支援した。</p>	

取組における課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・川東地区では、地域全体で公共交通の問題を真剣に捉え、地域主体で取組を行えるまでには至っていない。 ・豊浦地区では、本格的に公共交通の検討をしていくため、検討組織を立ち上げる必要がある。
-----------	--

今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・豊浦地区における公共交通の検討組織を立ち上げ、令和3年4月の学校統合にあわせて地域交通の見直しができるよう検討を進めていく。 ・既存の検討組織については、これまで以上に地域主体で取組が進められるよう、引き続き活動を支援していく。
-----------	--

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	地域住民の意向に応じて実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4 - 5	公共交通の手引きの発行
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の課題を抱える地区では、課題解決に向けた取組の進め方が地区住民に十分に理解されていないことや、一部の住民にしか共有されていないことから、地区全体での主体的な活動につながっていかない状況がみられます。 住民の主体的な公共交通の検討、維持、運営等の活動を支援するため、行政と地域住民の役割分担を明確にし、具体的な取組の手順を示した住民向けの冊子を発行します。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
未実施	

取組における課題等

今後の取組の方向性
<p>・これまでに公共交通の検討を進めてきた菅谷・加治地区、川東地区、松浦地区などの取組の進め方や、現在、活動支援を進めている「加治川地域交通に関する研究会」の取組などのノウハウを蓄積しながら作成していくこととする。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画 (H29見直し)		優先的に検討 					
見直し後		優先的に検討 					

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4 - 6	各種イベントやホームページ等の活用による利用促進・意識啓発
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の必要性やあり方を考えるきっかけづくりや公共交通利用者の拡大に向け、各種イベントでの車両展示やパンフレットの配布、ホームページでの情報発信等により利用促進や意識啓発を図る周知活動を行います。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> 次のイベントにおいて、車両展示や時刻表の配布、職員の声かけなどによるPR活動を行った。 4月：みんなで絵かき！札の辻キャンパス 7月：サマーフェスティバル 11月：川東文化のつどい 2月：まちづくりフェスタ 市内において運行している各種バスの利用促進に関するチラシを高校やイベント等にて配布することにより、利用促進を図った。 前年度に引き続き、あやめバス、新発田市コミュニティバス、川東コミュニティバス、路線バスの時刻表をホームページに掲載したほか、松浦地区デマンド乗合タクシーの利用方法についてホームページ等を活用して周知した。 	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> あやめバスやコミュニティバスについて認知しており、自家用車や家族の送迎によらない移動を必要としていながら、公共交通の利用に至らない方もいることから、その要因を把握し、適切な情報提供や利用の働きかけを行うことが必要となっている。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ホームページ等を活用した情報発信においては、時刻表や系統図などの運行内容に加え、運行状況や乗り方に関する記載など、利用しやすい環境につながる情報の充実を図る。 各種イベントなどでのPR活動においては、実際の利用につながるような情報提供や、将来の利用を見据えたPRや家族での利用を意識してもらえるような企画内容の工夫を行う。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画							
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4 - 7	サポーター制度の構築
取組内容	・将来にわたる公共交通の維持確保に向け、市民が公共交通を応援できる仕組みを整えるため、地域の事業者や個人による協賛や支援活動等を行うサポーター制度を構築します。	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
未実施	

取組における課題等

今後の取組の方向性

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画							
見直し後							

地域住民の組織づくりや活動に応じて検討 

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4 - 8	高校・大学と連携した利用促進活動
取組内容	<p>・公共交通は、通学をはじめとした学生の移動手段として利用の拡大が期待されることから、効果的な利用促進を行うため、学校における公共交通の情報発信や、学生の視点を取り入れた取組の検討など、高校・大学との連携による利用促進活動を実施します。</p>	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

- ・市内の各高校に協力いただき、新入生向けにバス通学便を紹介するパンフレットを配布した。
- ・新発田中央高校、新発田商業高校、新発田高校では、公共交通に係る情報を掲示するコーナーを設置し、公共交通の利用促進に協力いただいている。
- ・大学生のインターンシップ受入れにおいて、あやめバスの利用促進策について検討を行った。

取組における課題等

- ・インターンシップ受入れの機会を活用し、利用促進策に係る検討は行うものの、具体化にまでは至っていない。

今後の取組の方向性

- ・引き続き、市内の各高校に協力いただき、新入生向けにバス通学便を紹介するパンフレットの配布や公共交通に係る情報を掲示するコーナーの設置などにより利用促進を図る。
- ・高校や大学のインターンシップ受け入れの機会を活用し、学生の視点を取り入れたバスの利用促進策の検討を進める。

実施スケジュール

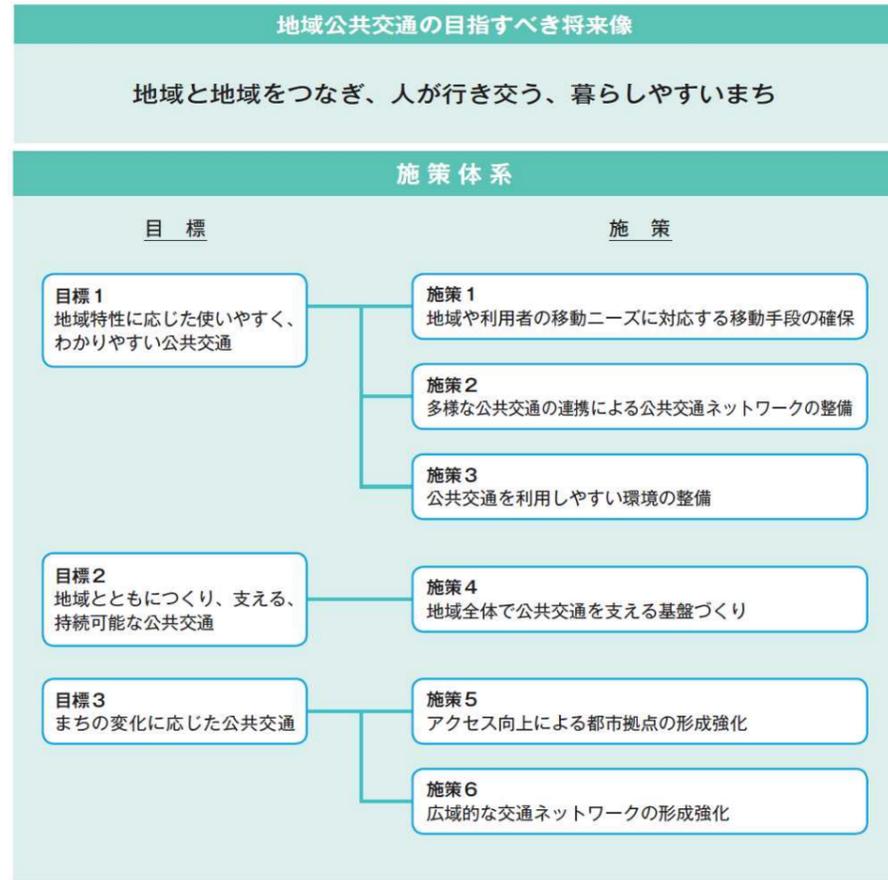
計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画							
見直し後							

【第1号議案】

資料 1

■新発田市地域公共交通網形成計画 体系図



【第1号議案】

資料 1

【目標2】 地域とともにつくり、支える、持続可能な公共交通								
評価指標	現状値	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
		目標値/実績値						
① 地域における検討支援体制の構築数	4団体 (H28年度)	6団体	7団体	8団体	8団体	8団体	8団体	8団体
	達成状況	x	x					
学校統合の検討を進めている豊浦地区についてはまだ検討体制の構築には至っていないが、五十公野～赤谷地区において、地区ごとに検討体制を立ち上げたため、団体数は前年度より多くなっている。令和元年9月頃に豊浦地区の検討組織を立ち上げる予定である。								
② 路線バス利用者1人当たり運行経費	1,077円/人 (H28年度)	1,070円/人	1,063円/人	1,056円/人	1,049円/人	1,042円/人	1,035円/人	1,028円/人
	達成状況	x	x					
平成29年10月、平成30年4月の運行見直しによって、前年度と比べて運行経費が減少した一方で、利用者数も減少したことから、一人当たり運行経費が高くなった。運行の効率化、利用促進を図り、改善していく必要がある。								
③ コミュニティバス利用者1人当たり運行経費	747円/人 (H27年度)	729円/人	712円/人	694円/人	676円/人	658円/人	641円/人	623円/人
	達成状況	○	x					
新発田市コミュニティバス（菅谷・加治）、川東コミュニティバスともに前年度と比べて運行経費が増加した一方で、利用者数が減少したことで、一人当たり運行経費が高くなった。今後も高校生の人数が減少し、利用者数が減少する恐れがあることから、運行の見直しによって経費の削減を図るとともに、地域との協働による利用促進策を継続して行っていく必要がある。								
④ 公共交通の利活用を推進する年間取組数	4件 (H28年度)	10件	11件	12件	12件	12件	12件	12件
	達成状況	x	x					
松浦地区デマンド乗合タクシーの実証運行を開始したことで、前年度に比べて取組数が増加した。また、川東地区でも昨年度実施できなかった乗り方教室を実施した。将来にわたって地域の公共交通を維持していくためには、今まで以上に地域が危機感を持ち、地域が主体となった利用促進の取組を積極的に進めていく必要がある。								

■評価指標の年度別達成状況

【目標1】 地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通								
評価指標	現状値	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
		目標値/実績値						
① 路線バスの年間利用者数 ※バス事業年度（10月から翌9月まで）	120,371人 (H28年度)	121,175人	121,979人	122,783人	123,588人	124,392人	125,196人	126,000人
	達成状況	x	x					
平成29年10月、平成30年4月の運行見直しによって、市が補助金を交付している対象路線が11路線から7路線に減少しており、利用者数も大幅に減少した。事業者の深刻な運転手不足により、今後も運行の見直しが必要となっている。※目標設定時から状況が変化していることから、目標値の再設定が必要になっている。								
② コミュニティバスの年間利用者数	108,401人 (H27年度)	111,487人	114,572人	117,658人	120,743人	123,829人	126,914人	130,000人
	達成状況	○	x					
H30実績値の内訳は、新発田市コミュニティバス（菅谷・加治）57,917人（前年度比△7,030人）、川東コミュニティバス48,704人（前年度比△7,409人）で、両路線とも高校生の利用者数の減少に伴い、利用者数が減少した。今後も高校生の人数は減少していくと考えられることから、利用ニーズに見合った運行の見直しによる効率的な運行（車両のコンパクト化、運行のスムーズ化）と、運転に不安を感じる高齢者等の利用促進を図っていく必要がある。								
③ 路線バスの見直し地区数	4地区 (H28年度)	6地区	7地区	8地区	8地区	8地区	8地区	8地区
	達成状況	x	x					
学校統合等により路線バスの見直しを行った地区は、菅谷・加治、川東、五十公野・米倉・赤谷、松浦、豊浦の5地区となっている。学校統合の検討が行われている地区を最優先に公共交通の見直しを進めるものの、高齢化が進行する中、既存の路線バスやコミュニティバスの運行を含めた市全域の公共交通網の再構築が急務となっている。								
④ 「バスどこ？」HPへの年間アクセス件数	14,162件 (H27年度)	15,710件	17,259件	18,807件	20,355件	21,903件	23,452件	25,000件
	達成状況	○	○					
バスの遅延が多くなる冬期にアクセス数が増加する傾向にあったが、H29年度、H30年度と年間を通じて平均的に利用されている。昨年度よりもアクセス件数は少なくなっているが、「バスどこ？」の活用が浸透してきているものと考えられる。今後も、遅延情報を随時発信することで、バス利用に係る不安の解消を図り、バスを利用しやすい環境の整備を進めていく。								

【目標3】 まちの変化に応じた公共交通								
評価指標	現状値	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
		目標値/実績値						
① あやめバス（市街地循環）の年間利用者数	80,582人 (H27年度)	80,956人	81,330人	81,704人	82,078人	82,452人	82,826人	83,200人
	達成状況	○	x					
あやめバスの利用者数は、H26年度から減少傾向にあったが、H29年度はH26年度と同程度まで回復した。H30年度も10月までは前年度とほぼ同じ利用者数であったが、少雪の影響もあり、11月以降、利用者数が伸びなかった。そのため、前年度よりも利用者数が減少したが、中心市街地における重要な移動手段であり、利用者数の推移をみながら、運行ルートやダイヤの見直しを行っていく必要がある。								
② 通学における高校生の公共交通利用率	51.0% (H28年度)	52.4%	53.9%	55.3%	56.7%	58.1%	59.6%	61.0%
	達成状況	—	—					
※H31年度（計画の中間評価）、H35年度（計画の最終評価）にアンケート調査を実施して把握する。								

※「評価」欄の○は達成、×は未達成

【第 1 号議案】

別冊資料

新発田市地域公共交通網形成計画

進捗管理シート

(平成 30 年度実績及び今後の取組)

令和元年 8 月

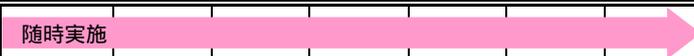
新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 1	市内高校へ通学しやすい運行時間や運行ルートの設定
取組内容	登下校の通学時間帯における市内高校への移動ニーズに対応し、幹線路線については、朝夕の時間帯において限定したバス停のみに停車する高校直通便の導入を検討します。これにより、学生の移動手段の確保を図ります。	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスによる通学について周知するため、各高校を通じて新入生にチラシを配布した。 ・市内各高校の最寄りバスまで運行する「高校通学便」の運行を引き続き行った。 (1)新発田市コミュニティバス:登校...6高校(新発田、新発田商業、新発田農業、新発田南、西新発田、新発田中央)、下校...2高校(新発田農業、新発田南) (2)川東コミュニティバス:登校...6高校(新発田、新発田商業、新発田農業、新発田南、西新発田、新発田中央)、下校...2高校(新発田、新発田商業) ・松浦地区デマンド乗合タクシーを高校生にも利用してもらえるよう、「定時定路線」の方向を視野に、登校時のみ「高校生専用便」の実証運行を平成30年12月に行ったが、わずか1名の利用であった。 	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の減少に伴い、コミュニティバスの利用者が減少しており、定期券の売り上げは平成29年度に比べ12%のマイナスとなった。今後も高校生の減少傾向は続くことから、利用ニーズの変化や県立高校の再編に応じた運行内容の見直し(車両等の適正化も含む)により、効率的な運行をしていく必要がある。 ・松浦地区のように、公共交通機関を使った通学に馴染みのない地区では、公共交通を整備しても利用につなげていくことが難しい状況である。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の移動ニーズに基づき、市内高校への登下校に利用しやすく、効率的な運行内容の見直し検討を進める。 ・各地区の公共交通の見直しに当たっては、高校生の利用ニーズを把握し、高校最寄りのバス停に停車する「高校直通便」の導入を検討する。 ・家族による送迎から公共交通機関利用へとつなげるため、各高校を通じた働きかけなどを行っていく。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 2	通院や買い物の往復など利用状況に対応した適切な運行
取組内容	通院や買い物のため、中心市街地への移動ニーズが高くなっています。利用実態と利用者ニーズを把握し、通院、買い物に利用できる時間帯とその復路の利用にも配慮した運行見直しを行います。	

平成30年度取組実績 具体的に記載してください。

・通院や買い物の行き帰りを考慮したダイヤの見直しに活かすため、赤谷地区において聴き取り調査を行った。
 ・主に通院に利用されている松浦地区デマンド乗合タクシーの利便性を向上させるため、利用者アンケートを実施し、平成30年12月に運行ダイヤの見直しを行った。

取組における課題等

・高齢化を背景に、高齢者の移動手段の確保が問題となっている。
 ・高校生の減少に伴い、路線バスやコミュニティバスの利用者が減少傾向にあることから、高齢者にとってより利用しやすい運行内容になるよう、運行形態も含め、各地区の公共交通の見直しを図る必要がある。

今後の取組の方向性

・中心市街地の通院や買い物の目的地となる施設への移動は、あやめバスによってアクセスが確保されていることから、あやめバスとの接続を考慮して、コミュニティバス等の運行ダイヤの検討を行う。
 ・高齢者の通院や買い物ニーズを十分把握し、各地区の公共交通の見直しを進める。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 3	新発田市コミュニティバス(菅谷・加治地区)の継続運行
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 菅谷・加治地区住民の日常の移動手段となっている新発田市コミュニティバスの運行を継続していきます。 菅谷地区は高齢化率が高くなっており、ますます公共交通の必要性が増していくものと考えられます。新発田市コミュニティバスの運行受託団体であるNPO法人七葉を通じてバスの利用状況や住民の移動ニーズを把握し、地域の方が利用しやすい時間帯の設定やルート改善を行います。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> 地元で立ち上げたNPO法人七葉に運行業務を委託し、新発田市コミュニティバスの継続運行を行った。 安全安心の運行のため、経年劣化に伴う中型路線バス車両の入替計画に基づき、1台の入替を行った。 地域の子どもの通学時等の安全性を確保するため、スクールバスの運行や放課後子ども教室への送迎を行った。 	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> 手帳提示の利用者数増加に加え、地元高校生の人数減少により、利用料収入が減少しており、今後、収支の悪化が見込まれることから、令和3年4月の小学校統合に向け、利用ニーズに見合った効率的な運行の見直しが必要となっている。 【手帳提示者の利用割合の推移】 H19～21 / 10%未満 H22以降増加傾向 H28 / 12.3%、H29 / 13.9%、H30 / 16.8% となっている。 【高校生の利用状況】 H28 / 218人 H29 / 202人(前年度比 16人) H30 / 170人(前年度比 32人) となっており、通学便における利用者数の減少が今後も見込まれる。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> アンケート等により地域ニーズを把握し、学校統合等も考慮した、利用実態に見合った運行内容の見直し(運行のスリム化)を行うとともに、車両入替計画を見直し、少子化を見据えた適正規模車両に入替えることで、事業費の削減を図る。 【参考】 高齢化率 / 市全体29.6%に対して、菅谷地区40.7%、加治地区25.7%(H27国勢調査結果) 車両台数 / 中型バス4台、マイクロバス3台

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時見直し実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 4	川東コミュニティバスの継続運行
取組内容	<p>・川東コミュニティバスの運行については、川東コミュニティバス検討部会において、平成29年度以降の基本目標や目標値を設定し、利用状況や移動ニーズに応じた時間帯の設定やルートの改善を行い、「地域の足」として将来へ引き継ぐ運行を維持していくことにしています。</p> <p>・高校生の自主通学を進めるため、高校生に対応したパンフレットの作成・配布、定期券の導入などによりバスをより利用しやすくしていきます。</p> <p>・高齢者の方々の公共施設や医療機関等への移動手段を確保するため、利用者アンケートを実施し、その中で把握した高齢者のニーズに対応した運行時間帯やルートの見直しを行います。また、わかりやすい時刻表の作成などを行います。</p> <p>・川東コミュニティバス検討部会と一緒に利用促進事業を行います。</p>	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

・地域住民で構成される川東コミュニティバス検討部会と協議を行いながら、新潟交通観光バス株式会社に運行業務を委託し、川東コミュニティバスの継続運行を行った。

・川東コミュニティバス検討部会において、**高校生の自力通学率を上げるため、中学3年生に回数券と乗り方案内を配布するとともに、乗り方教室の実施や地域のイベントにおけるバスの乗り方等を示したパネル展示**などの利用促進事業を行った。

取組における課題等

・乗車人数は目標260人/日に対して実績**202.1人/日(前年度比 30.7人)**、運賃収入は目標27,500円/日に対して実績**18,198円(前年度比 1,987円)**となっており、目標達成は難しい状況である。目標達成に向けた更なる利用促進の取組と**利用につながらない要因を把握する必要がある。**

・**令和2年度**以降の運行に向け、現在のバス運行の検証を行い、今後の運行の方向性を決定する必要がある。

今後の取組の方向性

・利用実態を把握するとともに、平成26年度からの利用実績を踏まえながら、利用実態に見合った効率的な運行内容について、川東コミュニティバス検討部会とともに検討を行う。

・**地域の公共交通を地域で守るという意識をもってもらい、「乗り方教室」も含め、地域住民自らの取組につなげる。**

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	毎年度検証・見直しを行う		継続又は見直し				
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 5	東中学校区の公共交通の見直し
取組内容	<p>・東中学校区を運行している新谷線、東赤谷線は、小中学生の通学に利用されています。平成30年4月の東小学校の開校に向け、学校統合後の通学に利用しやすいよう地域の方や交通事業者と検討協議を行い、経路の変更やダイヤの見直しを実施します。</p> <p>・東中学校区公共交通・通学支援検討委員会を中心として、東中学校区の公共交通の確保に向けた協議・意見交換を継続して行います。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・五十公野～赤谷地区では日常生活の移動手段と通学手段を担う路線バスの運行を、松浦地区では市で初となるデマンド乗合タクシーの実証運行を行った。</p> <p>・五十公野～赤谷地区では、引き続き地域と意見交換を行うとともに、除雪等に関する要望書を県へ提出し、冬期間の通学の安全確保に努めた。</p> <p>・赤谷地区住民にとって利用しやすい公共交通の整備に活かすため、平成30年8月に赤谷地区生活交通に関する調査を行った。また、「ボランティア送迎」の代替運行について検討を行った。</p> <p>・松浦地区では、乗り方教室を実施するとともに、利便性向上のため、利用者アンケートを実施し、平成30年12月にダイヤの見直しと増便を行った。また、地域の方の意見を踏まえ、平成31年4月の運行ルート見直しに向け協議等を行った。高校生にも利用してもらえる公共交通とするため、高校生アンケートを実施し、高校生専用便の実証運行を平成30年12月に行ったが、わずか1名の利用であった。</p>	

取組における課題等	<p>・「ボランティア送迎」の代替として、平成31年4月から地域おこし協力隊員が送迎業務を担っているが、地域付きの隊員が見つからない状況が続いており、地域交通の抜本的な見直しが必要である。</p> <p>・バス事業者の深刻な運転手不足等により、路線の維持が困難となっており、路線の廃止という事態に備えて、地域とともに継続して公共交通のあり方を検討していく必要がある。</p> <p>・松浦地区デマンド乗合タクシーが地域住民の利用につながらない要因を把握し、使いやすいデマンド型交通を確立する必要がある。</p>
-----------	---

今後の取組の方向性	<p>・東中学校区(五十公野～赤谷地区)の公共交通・通学支援については、当面は事業者路線を活用することとなったものの、運転手不足等により事業者路線の維持も困難な状況となっていることから、地域住民等や交通事業者と継続して協議・意見交換を行い、生活交通の維持確保に向けて検討を進める。</p>
-----------	--

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	優先的に検討・実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 6	各地区の公共交通の見直し
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「見直し・整備の進め方」に基づき見直しを進めます。 ・公共交通空白域拡大や地域内交通が必要な地域において、地域住民で構成される組織を設置し、地域主体で取り組む交通サービスの検討を行います。 ・住民で構成される検討組織とともに、既存の鉄道や路線バスの活用、地域が運行主体のコミュニティバスやデマンド交通の導入等により、公共交通の見直しを進めていきます。 ・「小・中学校の望ましい教育環境に関する教育方針」に基づき、地域との協議において学校統合の検討が進む地区については、児童・生徒の安全安心な通学環境を確保するため、各地域の公共交通等の実情を踏まえ、通学支援を含めた最も効率的で利便性の高い公共交通の見直し、整備を地域とともに検討していきます。 ・サービスの向上や利用者の拡大を検討するなど、地域主体の公共交通の維持・運営を図ります。 	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

【加治川地区】

・地域で立ち上げた「加治川地域交通に関する研究会」に参画し、地域交通のあり方を検討するため、通院や買い物などの交通手段に関するアンケート調査実施に向けた検討や、アンケート調査結果について検討した。

【豊浦地区】

・令和3年4月の小学校統合に向け、豊浦地域統合小学校検討委員会において、通学支援と公共交通を一体的に捉えた検討を進め、通学支援とは別に公共交通の検討を進めることとした。地域の公共交通見直しに向け、日常生活の移動手段等を把握するためのアンケート調査を実施するため、区長会役員会と協議を行った。

取組における課題等

・今後も路線バス利用者が減少し、収支状況の更なる悪化が懸念される中、路線バスの廃止に代わる移動手段を確保する必要がある。

・既存のコミュニティバス路線についても、利用ニーズに見合った効率的な運行内容等への見直しが必要となっている。

・自家用車が運転できることを理由に、公共交通の必要性が低い地域が多いのが実態だが、高齢化が進行する中、将来的な動向等を見据え、各地区の見直しを進めていく必要がある。

・高齢化が進む中、公共交通では対応できない移動ニーズについては、福祉分野との連携と強化し、地域による「互助による輸送」を交通ネットワークを補完する一つの手法として捉え、公共交通とあわせて検討していく必要がある。

・公共交通の整備にあわせて、公共交通を利用してもらう取組を地域とともに検討し、地域が主となって実施していく必要がある。

・公共交通運営に係る財政負担について住民にわかりやすく伝え、公共交通サービスの水準の明確化と、収支状況や運行状況から運行の適正化を図る必要がある。

今後の取組の方向性

【加治川地区】

・加治川地域交通に関する研究会において、検討を継続する。

【豊浦地域】

・平成31年4月に地域の全世帯を対象にしたアンケート調査を実施する。

・アンケート調査結果を踏まえて、地域住民等で構成する公共交通の検討組織を設置し、平成33年4月の統合小学校開校にあわせて公共交通の整備ができるよう検討を進めていく。

(菅谷・加治地区、川東地区、東中学校区については、個別の事業に掲載)

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 7	コミュニティバス運賃の見直し
取組内容	<p>・コミュニティバスの運行においては、利便性と採算性のバランスの取れた持続可能性が求められています。市民負担の公平性の観点や民間路線バスの運賃体系を考慮し、運賃制度の見直し検討を行います。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・現行の運賃を継続 [市内コミュニティバス] 地域内 地域内 100円、地域内 地域外 200円 手帳提示で無料 [デマンド交通] 地域内 地域内 200円、地域内 地域外 300円 手帳提示で半額</p>	

取組における課題等
<p>・路線バスとコミュニティバスの運賃格差について、地域から是正の要望がある。 ・運行経費は増加傾向にあるものの、周辺地区では高校生の減少に伴い収入が減少傾向にあり、コミュニティバスの運行維持が厳しい状況になってきている。 ・利用実態及び収支状況等をみながら運行内容や運賃の見直しを行う必要があるが、統一的な収支に係る見直し基準がない。</p>

今後の取組の方向性
<p>・既存のコミュニティバス路線を効率的な運行に見直しを図り、利用状況等の推移をみながら、コミュニティバス等を維持していくため、必要に応じて運賃の見直し検討を行う。 ・コミュニティバス等の運行が継続していけるよう利用実態及び収支状況等から運行の適正化水準設定の検討を進める。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	コミュニティバスの検証・見直しに応じて検討 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 8	高校生や高齢者への運賃割引制度の検討と障がい者割引運賃の実施
取組内容	<p>・中心交通拠点である新発田駅から距離が離れている地域では、路線バスの運賃が高く、定期的に通院等でバスを利用する高齢者にとって経済的な負担が大きくなっているのに加え、高校生の自主通学を阻む原因ともなっています。また、公共交通の見直しを行い、コミュニティバスを導入している地域との間で運賃格差が生じています。そのため、市街地中心部から離れた地域の高齢者や高校生が日常的にバスを利用しやすいよう運賃の割引制度の検討を行います。</p> <p>・障がい者の社会参加を促進するため、路線バス運賃の割引とあやめバス、新発田市コミュニティバス、川東コミュニティバス運賃の無料化を引き続き実施します。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>【障がい者割引運賃】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あやめバス、新発田市コミュニティバス、川東コミュニティバス運賃の無料化を実施した(継続)。 ・松浦地区デマンド乗合タクシーでは、路線バス運賃の割引制度を下回らないよう利用料金を半額とした。 <p>路線バス運賃の割引制度 障がい者手帳所持者 本人 割引率50% ほか</p> <p>高校生や高齢者の割引制度及びコミュニティバスと路線バス運賃の格差是正については、各地区の公共交通の見直しを最優先としていることから具体的な検討は行っていない。</p>	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティバスについては、高校生の減少に伴い収入が減少傾向にある一方で、手帳提示による利用が増えており、今後収支の悪化が見込まれる。 ・コミュニティバスと路線バス運賃の格差是正については、小戸地区から地域要望があがっている。

今後の取組の方向性
<p>・バスの運行を将来にわたって維持していくためには、採算性、収支バランスを考慮した運賃設定も重要となっており、[事業1-7 コミュニティバス運賃の見直し]とあわせて、検討を進めていく。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 9	高齢者運転免許証返納支援事業の継続実施
取組内容	・高齢者が自家用車からバスへと交通手段を転換することは、高齢者事故防止等の観点から重要であることから、高齢者運転免許証返納支援事業を引き続き行います。	

平成30年度取組実績 具体的に記載してください。

平成25年4月1日以降に運転免許証を自主返納または更新しないで失効した65歳以上の方を対象に、下記 ~ のいずれか(5,000相当)を支援。 いきいきスタンプお買物券 133件 タクシー券 113件 コミュニティバス回数利用券 26件 路線バス回数券 7件 計279件		
---	--	--

取組における課題等

平成25年の事業開始以降から申請者数は増加しており、順調に実施されている。この事業は、免許返納のきっかけづくりとして実施しているが、免許返納後の包括的な生活支援を含めたアフターフォローが必要だと考える。

今後の取組の方向性

今後も事業を継続して行うとともに、高齢者の交通事故の減少を図るため、広報しばたや高齢者の交通安全教室等で引き続き制度周知を行う。
--

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	 随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け	
目標	1 地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1 地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 10 スクールバスの運行と定期券の購入補助
取組内容	・小・中学生が安心安全に通学できるよう、新発田市通学支援基準に基づきスクールバスの運行や定期券の購入補助を進めていきます。

平成30年度取組実績 具体的に記載してください。

【通年支援】

- ・市スクールバス...二葉小学校(1・2年生)、東小学校(五十公野地区)、佐々木小学校、加治川小学校
- ・スクールバス(事業者委託)...東小学校(松浦地区)、東中学校(松浦地区)
- ・定期券購入補助...東小学校(丑首、米倉・赤谷地区)、東中学校(米倉・赤谷地区)
- ・コミュニティバスのスクールバス発行...川東小学校、菅谷小学校、七葉小学校、七葉中学校

【冬季支援】

- ・市スクールバス...二葉小学校、加治川小学校(箱岩)、佐々木中学校(鳥穴・砂山)
- ・スクールバス(事業者委託)...佐々木小学校、中浦小学校、米子小学校、佐々木中学校(佐々木3・4・5区、大正通り)、紫雲寺中学校(二ツ山、人橋、真野原外、河岸場)、加治川中学校
- ・定期券購入補助...東中学校(米倉・赤谷地区)、紫雲寺中学校(藤塚浜)
- ・コミュニティバスのスクールバス発行...川東小学校、菅谷小学校、七葉小学校(蔵光・早道場の下校)、七葉中学校、川東中学校
- ・PTA運行バスへの補助...豊浦中学校
- ・タクシー借上...七葉小学校(茗荷谷)、紫雲寺小学校(大島地区の1・2年生)

取組における課題等

- ・バス乗降場所の安全確保のため、道路管理者等との連携を図り、改修等が必要な箇所については、優先順位を上げてもらい、より安全な乗降場所の確保に繋がっていきます。
- ・冬期間の除雪対応についても、道路管理者等との連携を図りつつ、乗降場所の除雪や降雪等による遅延の際の対応など、学校・地域・PTAとの協力連絡体制の強化を図っていきます。

今後の取組の方向性

・望ましい教育環境の実現による学校統合に伴う通学支援では、スクールバスの運行だけでなく、既存の公共交通の活用や地域との協働による公共交通の検討を進めていくこととします。直近では、豊浦地区・七葉中学校区の統合小学校の統合に向けて検討を進めます。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	1	地域や利用者の移動ニーズに対応する移動手段の確保
事業	1 - 11	廃止代替路線の検討、見直し
取組内容	<p>・廃止代替路線バスは、収支の悪化等により、施策上必要と認めたものに限り、市が運行補助をし、路線の維持を行っています。近年、利用者数が減少し、必要とされる公共交通に変化が生じていることから、その必要性や今後のあり方について路線ごとに検証し、交通事業者と運行について検討・協議を行いながら改善していきます。</p>	

平成30年度取組実績 具体的に記載してください。

・事業者が運行する廃止代替路線の減便及び廃止の申し出に対応した。

【平成31年4月1日から】

- ・飯島線 / 減便(往復4便 往復2便)
- ・赤谷六軒町線 / 減便(新発田駅方面行きの最終便1便を減便)
- ・新谷線 / 廃止(廃止時期を3月末 9月末に延長)

取組における課題等

- ・見直し路線の利用状況や運行欠損額の推移等をみながら、継続して運行内容の見直しを図り、市の財政負担軽減を図る必要がある。
- ・事業者路線の今後の運行について事業者と十分対話し、市全体の交通ネットワーク整備の方向性を検討していく必要がある。

今後の取組の方向性

- ・新谷線 登下校に活用している便もあることから、「赤谷六軒町線」を増便する方向で、令和元年10月以降の運行内容について交通事業者、阿賀町と協議を進める。
- ・その他路線 事業者の意見等も踏まえながら、利用状況や運行欠損額の推移等から運行の見直しを進める。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	各地区の公共交通の見直しにあわせて検討・見直しを行う 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	2	多様な公共交通の連携による公共交通ネットワークの整備
事業	2-1	鉄道との接続を考慮したあやめバス、コミュニティバス、路線バスのダイヤ改正
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高校への通学を中心に、市外へ行くための地域から駅へ向かう移動ニーズや、駅から市内の目的地へ向かう移動ニーズがあり、市内外の移動の円滑化のためには、鉄道との乗継ぎを考慮したバスのダイヤ設定が必要となっています。 ・鉄道のダイヤ改正に併せ、あやめバス、コミュニティバス、路線バスのダイヤ改正を行い、鉄道との乗継ぎが可能な運行便の設定や待合時間の短縮を図ります。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・JR東日本新潟支社からの情報提供により、鉄道のダイヤ改正によるあやめバス・新発田市コミュニティバス・川東コミュニティバスとの乗り継ぎの影響を確認し、運行ダイヤを現行どおりとした。</p>	

取組における課題等
<p>・朝夕の通勤・通学時間帯において、鉄道への乗継ぎニーズがある。</p>

今後の取組の方向性
<p>・鉄道のダイヤ改正に応じ、コミュニティバスの運行ダイヤの見直しが必要かどうか検討し、鉄道との乗継ぎが可能となるよう見直しを行う。</p> <p>・動態調査などの結果から、各駅における乗継ぎのニーズを把握する。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	鉄道のダイヤ改正に応じて実施 						
見直し後							

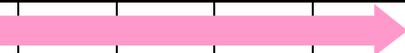
新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	2	多様な公共交通の連携による公共交通ネットワークの整備
事業	2-2	あやめバスとの接続を考慮したコミュニティバス、路線バスのダイヤ設定
取組内容	<p>・地域から市街地内の各施設へ移動するには、コミュニティバスや路線バスとあやめバスとの乗継ぎが必要となっていることから、各バス路線の相互の乗継ぎに配慮したダイヤ設定を行い、待合時間の短縮を図ります。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・あやめバスとの乗継ぎ時間を考慮して、新発田市コミュニティバス・川東コミュニティバス・松浦地区デマンド乗合タクシーの運行ダイヤを設定している(継続)。</p>	

取組における課題等	<p>・あやめバスとコミュニティバス・路線バスは新発田駅でネットワークが結節しているが、一部の便では、乗継ぎの待ち時間が長く、乗継ぎの利便性が低い状況にある。</p>
-----------	---

今後の取組の方向性	<p>・コミュニティバスの時刻表改正や各地区の公共交通の見直しにおいては、新発田駅において、あやめバスとの乗継ぎが可能なダイヤ設定を検討する。</p>
-----------	---

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	バス路線の見直しに応じて実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	2	多様な公共交通の連携による公共交通ネットワークの整備
事業	2 - 3	地域をつなぐコミュニティバスや路線バス同士のダイヤ設定
取組内容	<p>・路線バスやコミュニティバスを乗り継いで通学する高校生や観光施設等を訪れる観光客などの移動の円滑化を図るため、地域間の移動ニーズに配慮し、相互の乗継ぎを考慮したバス路線のダイヤ設定を検討します。</p>	

平成30年度取組実績 具体的に記載してください。

・新発田市コミュニティバスでは「七葉中学校前」バス停、川東コミュニティバスでは「川東小学校」バス停をコミュニティバス同士の乗継拠点として設定し、乗継ぎが可能なダイヤを設定している(継続)。

取組における課題等

・川東コミュニティバスの利用者からは、路線バスの木崎線との乗継ぎについて考慮を求める声がある。

今後の取組の方向性

・コミュニティバスや路線バスのうち広域的な移動を担う路線、沿線に利用者の多い施設が立地する路線については、その利用者の移動ニーズに応じて、コミュニティバスや路線バス同士の乗継ぎが可能な検討する。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	バス路線の見直しに応じて実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	2	多様な公共交通の連携による公共交通ネットワークの整備
事業	2 - 4	利便性向上に向けた鉄道事業者への改善要望活動の実施
取組内容	・鉄道との乗継ぎ利便性の向上のため、鉄道事業者への改善要望活動を継続して行います。	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
○新潟県鉄道整備促進協議会 ・ダイヤ改正時における事前の情報提供を受けれるよう、JRに対し要望活動を実施。3月のダイヤ改正に合わせ、事前に情報提供を受けている。	

取組における課題等
市内を循環するバスやコミュニティバスのダイヤ見直しに当たっては、白新線・羽越本線のダイヤ等を考慮し、電車からバス等への乗り継ぎを円滑にする必要がある。

今後の取組の方向性
今後もJRから事前の情報提供を受けれるよう要望を継続するとともに、「事業6-4 羽越本線の高速化に向けた要望活動の実施やシンポジウムの開催支援」とあわせて、協議会事務局(新潟県)に対して要望内容の提案などの働きかけを行う。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画							
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事業	3-1	バス待合所の設置推進とバス待合所等設置事業補助金制度の見直しの検討
取組内容	<p>・バス利用が少ない理由として「雨雪の中でのバス待ち」が挙げられており、待合環境の改善が課題となっています。バス利用者の利便性向上のため、バス待合所等設置事業補助金制度により、自治会が行うバス待合所の設置、増改築、改修又は修繕に係る対象経費の一部を補助していきます。また、補助金の対象となっていないベンチなどの設置要望も多いことから、補助金制度の見直しを検討します。</p> <p>・中心市街地においては、待合所を設置するスペース等がないことから、バス停付近の事業者等の協力により待合環境の充実を図ります。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・バス利用者の利便性を向上するため、バス待合所等設置補助金制度により、自治会等が行うバス待合所の設置に係る対象経費の一部を補助した。</p> <p>【実績】 新築1件 スクールバス待合所の新設(あやめ児童広場内)</p> <p>・翌年度の補助制度の活用について、市内の全自治会等に対し意向確認を実施した。</p>	

取組における課題等
<p>・補助対象経費の拡大や補助を希望する自治会の増加に伴い、財政負担の増加が懸念される。</p> <p>・待合所の設置が難しい中心市街地については、事業者等に待合スペースの提供やベンチの設置などの取組に協力してもらえるような仕組みづくりを検討する必要がある。</p>

今後の取組の方向性
<p>・現行の補助制度による自治会等の待合所等設置推進を継続して実施する。</p> <p>・補助金制度の見直しによる影響や中心市街地における事業者等の意向を確認し、待合環境充実に向けた取組について継続して検討を行う。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事業	3-2	バリアフリー車両の導入促進と導入車両の検討
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの多くは、乗降ステップの段差が大きく、高齢者等がバスを利用する際の大きな障害となっています。高齢者等に配慮し、交通事業者と連携、協力を図りながら乗降しやすい低床型車両の導入や更新を随時行います。 ・また、地域内路線等への導入に当たっては、利用状況や道路状況に応じた車両選定を行います。 	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

- 【新発田市コミュニティバス】
- ・H30年8月に実施したバス入替において、バリアフリー法に適合した車両を選定した。
 - ・令和元年8月に予定しているバス入替において、バリアフリー法に適合した車両を選定した。
- 【松浦地区デマンド乗合タクシー】
- ・道路状況に応じて、バスではなくワゴン車両で運行している(継続)。

取組における課題等

- ・障がいのある方の利用率が伸びており、高齢者をはじめ、誰もが乗りやすい車両の選定が必要となっている。

今後の取組の方向性

- ・バス入替においては、バリアフリー法に適合した車両を選定する。
- ・バスの入替に当たっては、利用実態や道路状況等に応じた適正な規模の車両とし、財政負担も考慮しながら計画的な入替を行う。
- ・**車両の経年劣化により不具合が多くなっているあやめバス車両の入替について検討する。**

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事業	3-3	市内公共施設と連携したデジタルサイネージを活用した情報発信
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新発田市役所(ヨリネスしばた)や新発田駅前複合施設(イクネスしばた)では、施設内のデジタルサイネージを活用し、あやめバスの運行情報を発信しています。引き続き情報発信を行い、バス利用者の不安感の解消や利便性の向上を図ります。 	

平成30年度取組実績 具体的に記載してください。

- ・前年度に引き続き、新発田市役所(ヨリネスしばた)と新発田駅前複合施設(イクネスしばた)のデジタルサイネージに、「バスどこ?」ホームページを表示させることにより、バスの運行情報を発信した。
- ・「バスどこ?」ホームページの編集機能を活用し、随時、バスの遅延や代車運行などの情報を発信した。

取組における課題等

- ・デジタルサイネージによる運行情報の発信を行っている施設では、待合環境が向上している。

今後の取組の方向性

- ・デジタルサイネージの活用を継続する。
- ・「バスどこ?」ホームページを活用し、運行情報発信の充実を図る。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事業	3 - 4	「バスどこ？」の対象路線拡大とシステムの再構築
取組内容	<p>・バスは渋滞や天候等の影響により遅延が生じやすいことから、バス待ち時の不安の解消を図るため、あやめバス路線を対象として、バスの現在位置をホームページに表示する「バスどこ？」による情報発信を実施しています。更なる利便性の向上と不安の解消を図るため、対象路線の拡大や時刻表の検索機能の付加といった「バスどこ？」のシステムの再構築を検討します。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・前年度に引き続き、「バスどこ？」による情報発信を行った。 ・「バスどこ？」ホームページの編集機能を活用し、随時、バスの遅延や代車運行などの情報を発信した。</p>	

取組における課題等	<p>・新発田市総合健康福祉センターの施設管理方針に応じた専用端末の移動の検討が必要となっている。 ・運行時の振動等で機器に不具合が生じることがあり、機器の改良等が必要となっている。 ・対象路線の拡大や新規機能の付加に当たっては、期待される効果や費用、財政支援制度の活用を検討が必要である。</p>
-----------	--

今後の取組の方向性	<p>・現行の取組を継続する。 ・新発田市総合健康福祉センターの機能移転を見据え、専用端末の新たな設置場所の選定に向け、バス停や付近の施設の利用状況、設置に適した環境などから候補地の検討を行う。 ・国の「標準的なバス情報フォーマット」活用の方角を検討し、「バスどこ？」の対象路線の拡大について検討する。</p>
-----------	--

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	バス路線の見直しに併せて対象地域の拡大を検討						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け	
目標	1 地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	3 公共交通を利用しやすい環境の整備
事業	3 - 5 バス停案内表示の充実と公共交通ガイドマップの作成
取組内容	・バスを利用しない理由として「時刻表や運行ルート等がわからない」という意見が多くあることから、バスや鉄道を含めた地域全体の公共交通を対象とし、それぞれの時刻表や運行ルート、運賃、乗継ぎ等の情報をわかりやすく紹介する「公共交通ガイドマップ」やバス停の案内表示の作成を行います。

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・平成29年度に作成した「あやめバス乗り方ガイド」を活用し、松浦地区、川東地区住民を対象としたバスの乗り方教室において配布・説明を行った。</p> <p>・新潟県IT&ITS推進協議会の「調査研究事業」を活用して、経路探索サイトへのコミュニティバス情報掲載データを作成した。</p>	

取組における課題等
<p>・各地区の公共交通の見直しや既存のコミュニティバスの運行内容の見直し検討を行っており、市内の公共交通網が大きく変化する可能性があることから、市内全域を対象とする総合的なガイドマップの作成は、現段階では難しい状況にある。</p>

今後の取組の方向性
<p>・市内全域を対象とする総合的なガイドマップの作成については、各地区の見直しやコミュニティバスの運行内容の変更の時期を踏まえ、市内全域の見直しがある程度進んだ段階で検討する。</p> <p>・当面の間は、各地区のコミュニティバス・路線バスとあやめバスの乗継ぎを紹介するなど、各地区に応じた利用ガイドを発行していく。</p> <p>・経路探索サイトにコミュニティバスの情報データを掲載し、バス利用者の利便性向上を図る。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	バス路線の見直しに併せて実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	1	地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	3	公共交通を利用しやすい環境の整備
事業	3 - 6	地域主催の乗り方教室の開催
取組内容	<p>・「乗り方がわからない」「乗継ぎ方法がわからない」といった不安がバスを利用しない要因の一つとなっています。そのため、乗り方教室を開催し、公共交通の魅力や必要性、乗り方など日常生活の中で公共交通について考える場を提供することで、公共交通の利用促進を図ります。</p>	

平成30年度取組実績 具体的に記載してください。

<p>・松浦地区デマンド乗合タクシー「まつうら号」運行エリアの住民を対象に、まつうら号とあやめバスの乗り方教室を実施した。(平成30年10月30日(火曜日))</p> <p>・上三光自治会の住民を対象に、川東コミュニティバスとあやめバスの乗り方教室を実施した。(平成30年11月26日(月曜日))</p>
--

取組における課題等

<p>・川東地区については、川東コミュニティバス検討部会を通じて、乗り方教室の実施について地域に働きかけを行っていく必要がある。</p> <p>・乗り方教室の参加によりコミュニティバス等の利用につながったのか効果を検証する必要がある。</p>

今後の取組の方向性

<p>【川東コミュニティバス】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブと連携した取組の方向性について検討を進める。 ・過去の乗り方教室参加者を対象にアンケートを実施し、効果を検証するとともに、利用につながっていない場合は、その原因等について把握し、乗り方教室のやり方やバス運行内容等の見直しにつなげていく。 <p>【松浦地区デマンド乗合タクシー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・松浦地区公共交通協議会と連携して進め、あやめバスの乗り方教室も含めた内容で計画、実施する。
--

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画							
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け	
目標	1 地域特性に応じた使いやすく、わかりやすい公共交通
施策	3 公共交通を利用しやすい環境の整備
事業	3 - 7 ICカード導入の検討
取組内容	・交通系ICカード(Suica等)は、小銭の用意等が不要となり支払いがスムーズになることや、乗降データの収集による詳細な利用実態の把握が期待できることから、車両の入替に併せてシステムの導入を検討します。

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
未実施	

取組における課題等
・ICカード導入については、特に学生からの要望が高いが、費用対効果を十分検討する必要がある。

今後の取組の方向性
・他市の導入効果等をみながら、継続して検討を進める。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画 (H29見直し)		各地区の公共交通の見直し状況に応じて検討 					
見直し後		各地区の公共交通の見直し状況に応じて検討 					

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4-1	ノーマイカーデーの周知・啓発
取組内容	ノーマイカーデー等の周知・啓発により、公共交通利用のきっかけを作り、自家用車から公共交通機関への利用を促すとともに、環境負荷の低減につなげます。	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>通勤距離4km未満の平均実施者数: 約216人(対象者の約41%) 通勤距離4km以上の平均実施者数: 約122人(対象者の約18%)</p> <p>平成30年度ノーマイカーデー平均実施者数: 約338人(対象者の約29%)</p> <p>なお、上記の結果は報告書未提出の一部の課等を除く結果である。</p>	

取組における課題等
<p>ノーマイカーデー実施者数の割合が前年度と比べてもほぼ変化がないため、実施者を増やしていく必要がある。</p>

今後の取組の方向性
<p>ノーマイカーデーのさらなる周知啓発を行う。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

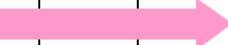
新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4-2	商店街等と連携した取組の検討
取組内容	<p>・公共交通の活性化により中心市街地や地域に人の流れを生み出すため、地域の商店街・商業施設や市内観光施設と連携し、公共交通によるアクセス方法の周知や時刻表の設置、バス回数券の贈呈といった、利便性の向上や利用促進を図る取組を検討します。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・商店街にある薬局、まちなかの観光休憩処たまり駅や商業施設内にあやめバスの時刻表を設置した(継続)。</p>	

取組における課題等
<p>・公共交通機関利用に不安を感じている高齢者等が多いことから、周辺地区からまちなかへの人の流れを作り、安心してまちなかで買い物等ができるよう、従前の時刻表設置場所以外で設置効果がある場所を検討し、簡単な乗り案内ができるような協力体制を築いていく必要がある。</p>

今後の取組の方向性
<p>・商店街や商業施設、市内観光施設との連携の可能性について検討を進める。 ・新発田信用金庫で検討が進められている、運転免許証を自主返納された方へコミュニティバス回数利用券を贈呈する取組の支援を行う。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画		あやめバスの検証・見直しに応じて検討 					
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4-3	車内・車外広告の募集やバス停のネーミングライツの検討
取組内容	・公共交通の維持に向けて収入を確保するとともに、情報発信手段として地域によるバスの活用を推進するため、音声広告や車内・車外広告の募集を引き続き行います。また、バス停名に施設・店舗名等を付けるネーミングライツの検討を行います。	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
【車内・車外広告の募集】 ・広報しばた及び市ホームページで募集を行った。 （継続）5件（新規）0件	

取組における課題等	【車内・車外広告の募集】 ・ここ数年、継続掲載のみで新規の応募がない。 【ネーミングライツ】 ・最寄りの施設名称とバス停名称が一致していないものも見受けられ、わかりやすい名称への変更について要望がある。
-----------	--

今後の取組の方向性	【車内・車外広告の募集】 ・収入確保のため、引き続き、音声広告や車内・車外広告の募集を行う。 ・広報しばた及び市ホームページのほか、市内事業者等に個別に働きかけを行う。 ・他市の状況等を把握し、広告掲載料の見直しについて検討を進める。 【ネーミングライツ】 ・ネーミングライツの有効性などについて検証するなど、引き続き検討を行う。
-----------	--

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施（ネーミングライツは車内・車外広告の募集状況に応じて検討）						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4-4	地域住民の主体的な組織づくりや活動の支援
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通の検討、維持を担う住民組織の構築を支援します。 ・住民組織の主体的な活動を支援します。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>【菅谷・加治地区】NPO法人七葉 / 理事会や総会における利用状況等の資料提供を行った。 【川東地区】川東コミュニティバス検討部会 / 運行内容等の検討を行う会議開催や利用促進などの活動支援を行った。 【松浦地区】松浦地区公共交通協議会 / 役員会や総会開催、松浦地区デマンド乗合タクシー運営等事務、利用促進などの活動支援を行った。 【加治川地域】加治川地域交通に関する研究会 / アドバイザーとして参加し、地域組織の主体的な活動を支援した。</p>	

取組における課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・川東地区では、地域全体で公共交通の問題を真剣に捉え、地域主体で取組を行えるまでには至っていない。 ・豊浦地区では、本格的に公共交通の検討をしていくため、検討組織を立ち上げる必要がある。
-----------	--

今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・豊浦地区における公共交通の検討組織を立ち上げ、令和3年4月の学校統合にあわせて地域交通の見直しができるよう検討を進めていく。 ・既存の検討組織については、これまで以上に地域主体で取組が進められるよう、引き続き活動を支援していく。
-----------	--

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	地域住民の意向に応じて実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4 - 5	公共交通の手引きの発行
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の課題を抱える地区では、課題解決に向けた取組の進め方が地区住民に十分に理解されていないことや、一部の住民にしか共有されていないことから、地区全体での主体的な活動につながっていかない状況がみられます。 ・住民の主体的な公共交通の検討、維持、運営等の活動を支援するため、行政と地域住民の役割分担を明確にし、具体的な取組の手順を示した住民向けの冊子を発行します。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
未実施	

取組における課題等

今後の取組の方向性
<p>・これまでに公共交通の検討を進めてきた菅谷・加治地区、川東地区、松浦地区などの取組の進め方や、現在、活動支援を進めている「加治川地域交通に関する研究会」の取組などのノウハウを蓄積しながら作成していくこととする。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画 (H29見直し)		優先的に検討 					
見直し後		優先的に検討 					

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4 - 6	各種イベントやホームページ等の活用による利用促進・意識啓発
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の必要性やあり方を考えるきっかけづくりや公共交通利用者の拡大に向け、各種イベントでの車両展示やパンフレットの配布、ホームページでの情報発信等により利用促進や意識啓発を図る周知活動を行います。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> 次のイベントにおいて、車両展示や時刻表の配布、職員の声かけなどによるPR活動を行った。 4月：みんなで絵かき！札の辻キャンパス 7月：サマーフェスティバル 11月：川東文化のつどい 2月：まちづくりフェスタ 市内において運行している各種バスの利用促進に関するチラシを高校やイベント等にて配布することにより、利用促進を図った。 前年度に引き続き、あやめバス、新発田市コミュニティバス、川東コミュニティバス、路線バスの時刻表をホームページに掲載したほか、松浦地区デマンド乗合タクシーの利用方法についてホームページ等を活用して周知した。 	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> あやめバスやコミュニティバスについて認知しており、自家用車や家族の送迎によらない移動を必要としていながら、公共交通の利用に至らない方もいることから、その要因を把握し、適切な情報提供や利用の働きかけを行うことが必要となっている。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ホームページ等を活用した情報発信においては、時刻表や系統図などの運行内容に加え、運行状況や乗り方に関する記載など、利用しやすい環境につながる情報の充実を図る。 各種イベントなどでのPR活動においては、実際の利用につながるような情報提供や、将来の利用を見据えたPRや家族での利用を意識してもらえるような企画内容の工夫を行う。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画							
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4 - 7	サポーター制度の構築
取組内容	・将来にわたる公共交通の維持確保に向け、市民が公共交通を応援できる仕組みを整えるため、地域の事業者や個人による協賛や支援活動等を行うサポーター制度を構築します。	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
未実施	

取組における課題等

今後の取組の方向性

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画							
見直し後							

地域住民の組織づくりや活動に応じて検討 

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	2	地域とともに作り、支える、持続可能な公共交通
施策	4	地域全体で公共交通を支える基盤づくり
事業	4 - 8	高校・大学と連携した利用促進活動
取組内容	<p>・公共交通は、通学をはじめとした学生の移動手段として利用の拡大が期待されることから、効果的な利用促進を行うため、学校における公共交通の情報発信や、学生の視点を取り入れた取組の検討など、高校・大学との連携による利用促進活動を実施します。</p>	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

- ・市内の各高校に協力いただき、新入生向けにバス通学便を紹介するパンフレットを配布した。
- ・新発田中央高校、新発田商業高校、新発田高校では、公共交通に係る情報を掲示するコーナーを設置し、公共交通の利用促進に協力いただいている。
- ・大学生のインターンシップ受入れにおいて、あやめバスの利用促進策について検討を行った。

取組における課題等

- ・インターンシップ受入れの機会を活用し、利用促進策に係る検討は行うものの、具体化にまでは至っていない。

今後の取組の方向性

- ・引き続き、市内の各高校に協力いただき、新入生向けにバス通学便を紹介するパンフレットの配布や公共交通に係る情報を掲示するコーナーの設置などにより利用促進を図る。
- ・高校や大学のインターンシップ受け入れの機会を活用し、学生の視点を取り入れたバスの利用促進策の検討を進める。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画							
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 1	あやめバスの運行とダイヤ改正やルート変更等による利便性の向上
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地内の移動手段の確保や回遊性の向上を図るため、公共施設や商業施設、医療機関等を結び、市街地を循環するあやめバスの運行を継続します。 ・あやめバスの利用が減少傾向にある要因として、移動ニーズと運行内容の不一致が考えられることから、施設の立地状況や移動ニーズ調査を踏まえ、市街地内への通学や買い物、通院の移動に応じた運行ダイヤの改正やルート変更を検討します。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、新潟交通観光バス株式会社に運行業務を委託し、あやめバスの継続運行を行った。 	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・平成26年4月に運行内容の見直しを行ったが、1便当たり利用者数については、運行見直し前の平成25年度が15.9人/便となっていたのに対し、平成30年度は13.7人/便となっており減少していることから、利用者の確保にむけた取組が必要となっている。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・各地区の公共交通の見直しの進捗をみながら、その見直しと一体的にあやめバスの運行ダイヤやルートの見直し検討を進める。 ・市内各高校への登下校のニーズや市内外出先(商業施設、医療機関等)への外出ニーズを把握するとともに、新発田駅等におけるコミュニティバス・路線バス・鉄道との乗継ぎ状況と運行ダイヤについて検証を行い、見直しの検討を進める。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施(ダイヤ改正やルート変更は運行内容の検証に応じて検討) 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 2	あやめバス利用者に対する移動ニーズ調査
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・あやめバスは、時間帯や乗車地によって利用の傾向が大きく異なるため、運行内容の検証においては、通学や買い物、通院といった日常生活における移動ニーズについて、詳細な分析を行う必要があります。 ・それぞれの移動ニーズを把握するため、定期的に行うバス停別の乗降調査に加え、発着地調査や利用者に対するアンケート、ヒアリング等を行います。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・過去の動態調査結果と年4回の動態調査結果を分析し、利用状況の変化の要因を考察し、利用促進の取組と今後の運行見直しの方向性について検討した。 	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・あやめバスの主要な利用者層は高校生や高齢者となっており、これらの利用者のより一層の利用を促す取組や運行内容の改善が必要となっている。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・少子化の進行により、今後も高校生の減少が予測されることから、高校の新生や家族の送迎等で通学している高校生等の通学手段として利用してもらえるよう学校を通じた周知のほか、各地区の公共交通の見直しの状況をみながら、ニーズ把握を行い、運行内容の改善について検討を行う。 ・高齢化の進行や高齢運転者の免許返納支援の取組により高齢者の需要増加が考えられることから、各地区の公共交通の見直しの状況をみながら、市街地内における高齢者の移動ニーズを把握していく。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	優先的に検討 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け	
目標	3 まちの変化に応じた公共交通
施策	5 アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 3 あやめバスの新たなネットワークの検討
取組内容	・あやめバスの沿線から離れた市街地の西側(新栄町、富塚町等)や東側(豊町、東新町等)の地域で商業施設や住宅地の立地が進んでいることから、変化する移動ニーズへの対応や新たな利用者の確保に向け、これらの地域を運行する新たなネットワークを検討します。

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
未実施	

取組における課題等	
	・あやめバスの運行内容の変更は、現在の利用者の利便性の低下や利用者の減少につながる考えられるため、慎重な検討が必要となっている。

今後の取組の方向性	
	・新たなネットワークについては、定住自立圏構想の推進や各地区の公共交通の見直しと一体的に検討する。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画		移動ニーズ調査の結果を踏まえて検討 					
見直し後		移動ニーズ調査の結果を踏まえて検討 					

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 4	パークアンドライドのあり方の検討
取組内容	・パークアンドライドについては、利用ニーズの状況や民間支援等の取組も含め、今後のあり方について検討を行います。	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>平成29年度に実施したアンケート調査により、パークアンドライド駐車場整備の必要性について、駅利用者の意向を把握することが出来た。平成30年はアンケート調査の結果を踏まえ、パークアンドライド駐車場整備の実現性を検証した。用地取得費・測量設計費・工事費と概算事業費の算出を行った。</p>	

取組における課題等
<p>概算事業費を算出し、採算性を検証した。今後は利用できる国の補助金制度や支援制度の検討を行い、更なる実現性の検証を行っていく。また実現した場合において、パークアンドライド駐車場周辺の土地利用についても検証が必要となってくる。</p>

今後の取組の方向性
<p>今後は中長期的な視野から、パークアンドライド駐車場整備が実現した場合の周辺土地利用について、検証を行っていく。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	利用ニーズの状況等に応じて検討 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 5	駐輪場の維持
取組内容	・交通拠点となる駅やバス停までの移動手段として自転車での利用も多いことから、利用しやすい駐輪場を維持していきます。	

平成30年度取組実績 具体的に記載してください。

- 市内各駅駐輪場の自転車等整理業務(特に佐々木駅駐輪場の整理徹底)
- 各駐車場内における放置自転車の撤去、告示・通知業務(2回実施)
- 新発田駅前駐輪場屋根の排水溝清掃
- 新発田駅前駐輪場屋根の漏水修繕工事
- 各高校・大学へ卒業生による放置禁止の注意喚起を実施

取組における課題等

- 各駐輪場施設の老朽化対策
- 放置自転車の抑制対策

今後の取組の方向性

- 各駐輪場施設の老朽化に対する随時点検、補修等の実施
- 放置自転車の撤去を適切に実施し、駐輪スペースを確保する
- 高校卒業生による放置を予防するため、各校への放置禁止の呼びかけを徹底する
- 委託業者へ業務内容の徹底を周知し、放置自転車の減少を図る

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 6	公共交通システムとの連携などの検討
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 交通結節点である新発田駅の利便性向上を図るため、公共交通との連携等により、賑わいのあるまちづくりを進める方策を検討します。 	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

・電話での問い合わせが多い新発田駅から市役所までの行き方のほか、新発田城や麓谷虹児記念館といった観光施設への最寄りバス停を紹介するあやめバスのりばの案内ポスターを新発田駅構内に掲示した(継続)。

取組における課題等

・新発田駅は、あやめバス・コミュニティバス・路線バス・鉄道など全ての公共交通が結節し、公共交通機関相互の乗継ぎが図られる拠点となっていることから、待合環境の改善などの利便性向上が必要となっている。

・新発田駅ロータリー内や西新発田駅ロータリー内のバス停留所には、待合場所としてベンチが設置されているものの、風除けがなく、天候の悪い時は不便を感じている利用者がいる。

・高齢者からは、電車からバス、バスから電車、バスからバスなどの乗り継ぎにおける待ち時間を楽しく過ごせる「交流の場」が求められている。

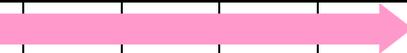
今後の取組の方向性

・駅構内にある待合所をバス乗換えの際も気兼ねなく利用できるよう鉄道事業者に働きかけを行う。

・新発田駅前で高齢者等が待合時間を活用して交流が図られるよう、「交流の場」創出の方向について、関係課等と検討する。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	駅の利用状況等に応じて検討 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 7	移動ニーズ調査の実施や市内観光施設を結ぶ周遊ルートの策定
取組内容	観光客の利用実態や移動ニーズを把握し、月岡温泉や市内観光施設へのアクセス手段の確保と観光周遊ルートの構築を図ります。	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>新潟 - 関西国際空港間を結ぶLCCの就航(H30.3)に伴い、新潟空港から市内観光施設を巡り月岡温泉を結ぶ「月岡温泉周遊ライナー」のバス運行に対して支援を実施した。</p>	

取組における課題等
<p>観光客の利用実態や利用ニーズを把握するための実証実験として位置付けているが、LCC航空会社を利用する方は概ね個人旅行客であり、これまでの団体客誘客と異なる新たな周知方法やPR方法に工夫が必要であり、また、持続可能なアクセス手段とするためにも利用者の増加に向けた取り組みも必要である。</p>

今後の取組の方向性
<p>平成30年度に創設された新潟県の補助金(新潟空港二次交通整備支援補助金)を活用しており、3年補助の2年目として引き続き活用するとともに、利用者のニーズを把握しながら、補助金終了後の継続運行に向けた方策を検討していく。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 8	広域観光周遊ルートの策定
取組内容	・阿賀北圏域で連携して広域観光周遊ルートを策定し、圏域の活性化を図ります。	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

インバウンド(訪日外国人)誘客の促進を図るために台湾の海外旅行エージェント(AGT)を平成29年度招聘し、造成した観光ツアーによって訪れたインバウンド(訪日外国人)旅行者に対して、当市の観光施設を含め阿賀北圏域(村上市、胎内市、聖籠町等)の観光施設見学等の手配を行う新発田市観光協会に支援を行った。

取組における課題等

インバウンド(訪日外国人)旅行者に対する阿賀北圏域の周遊ルートのバリエーション及び日本人旅行者に対しても、魅力ある阿賀北広域圏の周遊ルートの策定に向けた取り組みが必要である。

今後の取組の方向性

阿賀北9市町村で構成する「阿賀北広域観光圏づくり推進協議会」において、広域観光に取り組むための問題や課題の整理を今一度行いながら、阿賀北のブランディングに向けた方向性や具体的な取り組みを一丸となって検討し、具体的な周遊ルートの策定に取り組んでいく。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事業	6-1	近隣市町をつなぐ公共交通の見直し
取組内容	<p>・通勤、通学をはじめ通院や買い物で市域を超えた移動は日常的にみられますが、人口減少や高齢化といった社会情勢等の変化によって移動ニーズも変化しています。そのため、近隣市町との移動を支える公共交通として、次第浜線、中条線、佐々木稻荷岡循環線、新谷線などの事業者バス路線の利用実態を把握し、地域の方が利用しやすいよう運行経路や運行ダイヤ等の見直しを行います。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・平成30年4月に見直しを行った「新谷線」について、見直し前に比べて使い勝手が悪くなったという声を受け、運行ダイヤの見直しの方向について阿賀町と意見交換を行った。</p> <p>・事業者からの新谷線廃止申し出に対し、阿賀町と協議の上、対応した。</p>	

取組における課題等	<p>・新谷線は東小・中学校の登下校便としても使われていることから、学校の登下校の時間に支障が生じないよう運行の維持、ダイヤの見直しを検討する必要がある。</p> <p>・深刻な事業者の運転手不足により、新潟木崎線を除く当市の広域路線で運行の維持が難しい状況となってきた。</p> <p>【参考】当市の広域路線 / 新潟木崎線(新潟市)、次第浜線(聖籠町)、新谷線(阿賀町)</p>
-----------	---

今後の取組の方向性	<p>・路線の利用実態や運行状況等を把握し、近隣市町の移動ニーズに応じた見直しを継続して行う。</p> <p>・新谷線の廃止については、阿賀町の意向を尊重し、交通事業者と協議を行う。</p> <p>・新谷線が廃止となる場合は、「赤谷六軒町線」を増便する方向で登下校便を確保する。あわせて、令和元年10月以降の運行ダイヤについては、事業者及び阿賀町と協議の上、阿賀町の代替運行との乗り継ぎに十分配慮して設定する。</p>
-----------	---

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	優先的に実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事業	6-2	交通結節点の待合環境の整備と乗継ぎダイヤの見直し〔定住自立圏連携事業〕
取組内容	<p>・聖籠町の循環バス「エコミニバス」は、新発田市の大型商業施設が並ぶ「コモタウン」に午前午後1便ずつ乗入れており、そこで新発田市の市街地循環バス「あやめバス」に乗り換えることで両市町住民の通院や通学などの移動を円滑にしていますが、利用者の待合環境や利用環境は十分とは言えません。そのため、定住自立圏構想の取組として、利用者の一層の利便性向上を図るため、結節点である「コモタウン」にバス待合所を設置し、適切な維持管理を行うとともに、実態把握を行い、乗継ぎダイヤの見直しを行います。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
未実施	

取組における課題等	<p>・連携市町をつなぐ事業者バス路線の見直しにより、連携事業の方向性について再検討が必要となっている。</p> <p>【胎内市(中条線)】 連携事業として掲げていた胎内市デマンド交通「のれんす号」の紫雲寺地域への延伸については、費用対効果の面から事業内容の見直しが必要となった。</p> <p>【聖籠町(次第浜線)】 次第浜線を廃止し、聖籠町の循環バス「エコミニバス」の運行内容を見直し、定住自立圏連携事業で対応する方向について提案したものの、バス購入等に要する町負担が大きいことから実施には至らなかった。</p> <p>・各市町においては、それぞれの公共交通の見直しを最優先に行う必要がある。</p>
-----------	--

今後の取組の方向性	<p>・各市町の公共交通の見直しの進捗状況をみながら、当該事業の具体的な検討を行うこととし、当面は、それぞれの状況等を共有するため、毎年度、意見交換を継続する。</p>
-----------	--

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画 (H29見直し)			随時実施	→			見直し実施
見直し後				随時実施	→		

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事業	6-3	広域的な公共交通ガイドや位置情報システムの検討
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通ガイドや位置情報システムといった情報発信の取組については、運行主体や自治体により情報のアクセス先や情報量が異なることや、相互の連携が図られていないことから、広域的な移動における利便性が低くなっています。 ・近隣市町も含めた地域全体の公共交通網の活性化や、市内外の移動の円滑化を図る観点から、位置情報システムや公共交通ガイド等の情報発信の取組について、広域的な実施を検討します。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
未実施	

取組における課題等	
-----------	--

今後の取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・定住自立圏構想の推進や広域的な公共交通の見直しの状況に応じて検討を行う。
-----------	---

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画			広域的な公共交通の見直しに応じて検討 				
見直し後			広域的な公共交通の見直しに応じて検討 				

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事業	6 - 4	羽越本線の高速化に向けた要望活動の実施やシンポジウムの開催支援
取組内容	<p>・羽越本線の高速化促進や羽越新幹線の整備に向けて、周辺市町村と連携し、国や鉄道事業者等に対する継続的な要望活動や、各沿線地域との連携を強化する羽越本線高速化シンポジウム等の開催支援により、新発田駅を拠点とした沿線地域の広域的な交通ネットワーク形成の強化を図り、地域の活性化につなげていきます。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>○羽越本線高速化促進新潟地区同盟会参画事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽越本線高速化促進大会により、白新線・羽越本線の高速化に向け、JR東日本本社、関係省庁等へ要望活動を実施した。 ・羽越本線高速化シンポジウムを秋田県・山形県の3地区共同で開催し、沿線地域の連携強化を図った。 <p>○新潟県鉄道整備促進協議会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JRに対する利便性向上等に関する要望活動を実施した(白新線・羽越本線高速化等) 	

取組における課題等
<p>平成30年度新潟駅連続立体交差事業第1期開業により新幹線・在来線同一ホーム乗り換えが実現し、利便性向上や利用圏域の広がりを期待される中、市では白新線の複線化、県では羽越新幹線実現への動きもある。</p> <p>しかし、JR東日本に対し毎年要望活動等を行っているが、乗降客数の増加を前提条件とし、進展が見られない。また、人口減少の中、市も乗降客数増加に訴求する打開策が見い出せない。</p>

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・羽越本線高速化促進新潟地区同盟会参画事業では、同盟会事務局(新潟市)に対して活動内容の提案などの働きかけを行う。 ・白新線の複線化、羽越新幹線実現に向けた乗降客数増加のための取組みとして、交流人口・関係人口の増加を図るとともに、白新線沿線への県立施設誘致を推進する。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画							
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事業	6 - 5	広域交通維持事業(県内都市間高速バス) [連携中枢都市圏連携事業]
取組内容	<p>・県内都市間高速バスは、定時・速達性に優れ、地域間の通勤・通学等に欠くことができない移動手段ですが、自家用車の普及など高速バスを取り巻く情勢及び事業者の厳しい経営状況から減便・廃止が常態化しています。そのため、高速バスの利用状況把握や利用促進策に関する調査、検討を実施し、関係市町と連携して、高速バスの維持や代替手段の確保に向けた協議を行います。</p>	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

新潟広域都市圏は、平成28年12月16日に連携中枢都市宣言を行い、平成29年3月28日に連携協約を締結、同日に都市圏ビジョンを公表した。連携中枢都市は新潟市で、連携市町村は三条市、新発田市、燕市、五泉市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、弥彦村、田上町、阿賀町(6市3町1村)、圏域人口は平成31年4月1日現在で1,228,253人となっている。
本事業を含む地域公共交通に関連する連携事業について、平成30年7月に新潟広域都市圏連携事業(地域公共交通関連)として意見交換会を行った。

取組における課題等

当市に関連する県内都市間高速バスであった村上線が平成28年9月末で廃止されたため、実質的な連携事業はない。

今後の取組の方向性

県内都市間高速バスについて、利用状況を把握した上で、利用者の移動実態に合わせた運行形態を確認し、利用促進策を講じるとともに、事業者による自主運行が厳しい場合、代替策の検討及び行政による運行や支援を連携して行う。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事業	6-6	生活交通維持事業(地域間幹線系統バス路線) [連携中枢都市圏連携事業]
取組内容	<p>・複数市町村をまたがり運行されているバス路線は、地域間の通勤・通学・通院等、地域住民の日常生活に欠かせない路線です。国や県の支援を受けながら維持を図っていますが、利用者の減少や事業者の厳しい経営状況から現在のサービスレベルを維持することが困難になってきています。そのため、利用状況把握や利用促進策に関する調査、検討を実施し、関係市町と連携して、生活交通の維持確保に向けた協議を行います。</p>	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

新潟広域都市圏は、平成28年12月16日に連携中枢都市宣言を行い、平成29年3月28日に連携協約を締結、同日に都市圏ビジョンを公表した。連携中枢都市は新潟市で、連携市町村は三条市、新発田市、燕市、五泉市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、弥彦村、田上町、阿賀町(6市3町1村)、圏域人口は平成31年4月1日現在で1,228,253人となっている。

本事業を含む地域公共交通に関連する連携事業について、平成30年7月に新潟広域都市圏連携事業(地域公共交通関連)として意見交換会を行い、情報共有を図った。

取組における課題等

当市に関連する地域間幹線系統バス路線は、木崎線(万代シティ～新発田営業所)で、今現在の利用状況から、直ちに国庫補助の要件を充足しなくなるなどの、路線の維持に向けた課題等はないが、引き続き事業者や関係市町との情報共有等に努めていきたい。

ただし、利用状況の把握にあたっては、地域間幹線系統バス路線が事業者の営業路線のため、情報の入手が困難な状況にあり、事業者との密接な連携が必要となる。

今後の取組の方向性

地域間幹線系統バス路線における利用状況を把握した上で、利用者の移動実態に合わせた運行形態を確認し、連携して利用促進策や維持活性化策を講じる。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	<div style="background-color: #FFC0CB; padding: 5px;"> 随時実施 → </div>						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 1	あやめバスの運行とダイヤ改正やルート変更等による利便性の向上
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市街地内の移動手段の確保や回遊性の向上を図るため、公共施設や商業施設、医療機関等を結び、市街地を循環するあやめバスの運行を継続します。 ・あやめバスの利用が減少傾向にある要因として、移動ニーズと運行内容の不一致が考えられることから、施設の立地状況や移動ニーズ調査を踏まえ、市街地内への通学や買い物、通院の移動に応じた運行ダイヤの改正やルート変更を検討します。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・昨年度に引き続き、新潟交通観光バス株式会社に運行業務を委託し、あやめバスの継続運行を行った。</p>	

取組における課題等
<p>・平成26年4月に運行内容の見直しを行ったが、1便当たり利用者数については、運行見直し前の平成25年度が15.9人/便となっていたのに対し、平成30年度は13.7人/便となっており減少していることから、利用者の確保にむけた取組が必要となっている。</p>

今後の取組の方向性
<p>・各地区の公共交通の見直しの進捗をみながら、その見直しと一体的にあやめバスの運行ダイヤやルートの見直し検討を進める。</p> <p>・市内各高校への登下校のニーズや市内外出先(商業施設、医療機関等)への外出ニーズを把握するとともに、新発田駅等におけるコミュニティバス・路線バス・鉄道との乗継ぎ状況と運行ダイヤについて検証を行い、見直しの検討を進める。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施(ダイヤ改正やルート変更は運行内容の検証に応じて検討) 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 2	あやめバス利用者に対する移動ニーズ調査
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・あやめバスは、時間帯や乗車地によって利用の傾向が大きく異なるため、運行内容の検証においては、通学や買い物、通院といった日常生活における移動ニーズについて、詳細な分析を行う必要があります。 ・それぞれの移動ニーズを把握するため、定期的に行うバス停別の乗降調査に加え、発着地調査や利用者に対するアンケート、ヒアリング等を行います。 	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<ul style="list-style-type: none"> ・過去の動態調査結果と年4回の動態調査結果を分析し、利用状況の変化の要因を考察し、利用促進の取組と今後の運行見直しの方向性について検討した。 	

取組における課題等
<ul style="list-style-type: none"> ・あやめバスの主要な利用者層は高校生や高齢者となっており、これらの利用者のより一層の利用を促す取組や運行内容の改善が必要となっている。

今後の取組の方向性
<ul style="list-style-type: none"> ・少子化の進行により、今後も高校生の減少が予測されることから、高校の新生や家族の送迎等で通学している高校生等の通学手段として利用してもらえるよう学校を通じた周知のほか、各地区の公共交通の見直しの状況をみながら、ニーズ把握を行い、運行内容の改善について検討を行う。 ・高齢化の進行や高齢運転者の免許返納支援の取組により高齢者の需要増加が考えられることから、各地区の公共交通の見直しの状況をみながら、市街地内における高齢者の移動ニーズを把握していく。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	優先的に検討 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5-3	あやめバスの新たなネットワークの検討
取組内容	<p>・あやめバスの沿線から離れた市街地の西側(新栄町、富塚町等)や東側(豊町、東新町等)の地域で商業施設や住宅地の立地が進んでいることから、変化する移動ニーズへの対応や新たな利用者の確保に向け、これらの地域を運行する新たなネットワークを検討します。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
未実施	

取組における課題等
<p>・あやめバスの運行内容の変更は、現在の利用者の利便性の低下や利用者の減少につながる事が考えられるため、慎重な検討が必要となっている。</p>

今後の取組の方向性
<p>・新たなネットワークについては、定住自立圏構想の推進や各地区の公共交通の見直しと一体的に検討する。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画		移動ニーズ調査の結果を踏まえて検討 					
見直し後		移動ニーズ調査の結果を踏まえて検討 					

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 4	パークアンドライドのあり方の検討
取組内容	・パークアンドライドについては、利用ニーズの状況や民間支援等の取組も含め、今後のあり方について検討を行います。	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>平成29年度に実施したアンケート調査により、パークアンドライド駐車場整備の必要性について、駅利用者の意向を把握することが出来た。平成30年はアンケート調査の結果を踏まえ、パークアンドライド駐車場整備の実現性を検証した。用地取得費・測量設計費・工事費と概算事業費の算出を行った。</p>	

取組における課題等
<p>概算事業費を算出し、採算性を検証した。今後は利用できる国の補助金制度や支援制度の検討を行い、更なる実現性の検証を行っていく。また実現した場合において、パークアンドライド駐車場周辺の土地利用についても検証が必要となってくる。</p>

今後の取組の方向性
<p>今後は中長期的な視野から、パークアンドライド駐車場整備が実現した場合の周辺土地利用について、検証を行っていく。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	利用ニーズの状況等に応じて検討 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 5	駐輪場の維持
取組内容	・交通拠点となる駅やバス停までの移動手段として自転車での利用も多いことから、利用しやすい駐輪場を維持していきます。	

平成30年度取組実績 具体的に記載してください。

<ul style="list-style-type: none"> ○市内各駅駐輪場の自転車等整理業務(特に佐々木駅駐輪場の整理徹底) ○各駐車場内における放置自転車の撤去、告示・通知業務(2回実施) ○新発田駅前駐輪場屋根の排水溝清掃 ○新発田駅前駐輪場屋根の漏水修繕工事 ○各高校・大学へ卒業生による放置禁止の注意喚起を実施
--

取組における課題等

<ul style="list-style-type: none"> ○各駐輪場施設の老朽化対策 ○放置自転車の抑制対策
--

今後の取組の方向性

<ul style="list-style-type: none"> ○各駐輪場施設の老朽化に対する随時点検、補修等の実施 ○放置自転車の撤去を適切に実施し、駐輪スペースを確保する ○高校卒業生による放置を予防するため、各校への放置禁止の呼びかけを徹底する ○委託業者へ業務内容の徹底を周知し、放置自転車の減少を図る
--

実施スケジュール 計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施	→					
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 6	公共交通システムとの連携などの検討
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> 交通結節点である新発田駅の利便性向上を図るため、公共交通との連携等により、賑わいのあるまちづくりを進める方策を検討します。 	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

・電話での問い合わせが多い新発田駅から市役所までの行き方のほか、新発田城や麓谷虹児記念館といった観光施設への最寄りバス停を紹介するあやめバスのりばの案内ポスターを新発田駅構内に掲示した(継続)。

取組における課題等

・新発田駅は、あやめバス・コミュニティバス・路線バス・鉄道など全ての公共交通が結節し、公共交通機関相互の乗継ぎが図られる拠点となっていることから、待合環境の改善などの利便性向上が必要となっている。

・新発田駅ロータリー内や西新発田駅ロータリー内のバス停留所には、待合場所としてベンチが設置されているものの、風除けがなく、天候の悪い時は不便を感じている利用者がいる。

・高齢者からは、電車からバス、バスから電車、バスからバスなどの乗り継ぎにおける待ち時間を楽しく過ごせる「交流の場」が求められている。

今後の取組の方向性

・駅構内にある待合所をバス乗換えの際も気兼ねなく利用できるよう鉄道事業者に働きかけを行う。

・新発田駅前が高齢者等が待合時間を活用して交流が図られるよう、「交流の場」創出の方向について、関係課等と検討する。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	駅の利用状況等に応じて検討 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 7	移動ニーズ調査の実施や市内観光施設を結ぶ周遊ルートの策定
取組内容	観光客の利用実態や移動ニーズを把握し、月岡温泉や市内観光施設へのアクセス手段の確保と観光周遊ルートの構築を図ります。	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>新潟 - 関西国際空港間を結ぶLCCの就航(H30.3)に伴い、新潟空港から市内観光施設を巡り月岡温泉を結ぶ「月岡温泉周遊ライナー」のバス運行に対して支援を実施した。</p>	

取組における課題等
<p>観光客の利用実態や利用ニーズを把握するための実証実験として位置付けているが、LCC航空会社を利用する方は概ね個人旅行客であり、これまでの団体客誘客と異なる新たな周知方法やPR方法に工夫が必要であり、また、持続可能なアクセス手段とするためにも利用者の増加に向けた取り組みも必要である。</p>

今後の取組の方向性
<p>平成30年度に創設された新潟県の補助金(新潟空港二次交通整備支援補助金)を活用しており、3年補助の2年目として引き続き活用するとともに、利用者のニーズを把握しながら、補助金終了後の継続運行に向けた方策を検討していく。</p>

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	5	アクセス向上による都市拠点の形成強化
事業	5 - 8	広域観光周遊ルートの策定
取組内容	・阿賀北圏域で連携して広域観光周遊ルートを策定し、圏域の活性化を図ります。	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

インバウンド(訪日外国人)誘客の促進を図るために台湾の海外旅行エージェント(AGT)を平成29年度招聘し、造成した観光ツアーによって訪れたインバウンド(訪日外国人)旅行者に対して、当市の観光施設を含め阿賀北圏域(村上市、胎内市、聖籠町等)の観光施設見学等の手配を行う新発田市観光協会に支援を行った。

取組における課題等

インバウンド(訪日外国人)旅行者に対する阿賀北圏域の周遊ルートのバリエーション及び日本人旅行者に対しても、魅力ある阿賀北広域圏の周遊ルートの策定に向けた取り組みが必要である。

今後の取組の方向性

阿賀北9市町村で構成する「阿賀北広域観光圏づくり推進協議会」において、広域観光に取り組むための問題や課題の整理を今一度行いながら、阿賀北のブランディングに向けた方向性や具体的な取り組みを一丸となって検討し、具体的な周遊ルートの策定に取り組んでいく。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事業	6-1	近隣市町をつなぐ公共交通の見直し
取組内容	<p>・通勤、通学をはじめ通院や買い物で市域を超えた移動は日常的にみられますが、人口減少や高齢化といった社会情勢等の変化によって移動ニーズも変化しています。そのため、近隣市町との移動を支える公共交通として、次第浜線、中条線、佐々木稻荷岡循環線、新谷線などの事業者バス路線の利用実態を把握し、地域の方が利用しやすいよう運行経路や運行ダイヤ等の見直しを行います。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
<p>・平成30年4月に見直しを行った「新谷線」について、見直し前に比べて使い勝手が悪くなったという声を受け、運行ダイヤの見直しの方向について阿賀町と意見交換を行った。</p> <p>・事業者からの新谷線廃止申し出に対し、阿賀町と協議の上、対応した。</p>	

取組における課題等	<p>・新谷線は東小・中学校の登下校便としても使われていることから、学校の登下校の時間に支障が生じないよう運行の維持、ダイヤの見直しを検討する必要がある。</p> <p>・深刻な事業者の運転手不足により、新潟木崎線を除く当市の広域路線で運行の維持が難しい状況となってきた。</p> <p>【参考】当市の広域路線 / 新潟木崎線(新潟市)、次第浜線(聖籠町)、新谷線(阿賀町)</p>
-----------	---

今後の取組の方向性	<p>・路線の利用実態や運行状況等を把握し、近隣市町の移動ニーズに応じた見直しを継続して行う。</p> <p>・新谷線の廃止については、阿賀町の意向を尊重し、交通事業者と協議を行う。</p> <p>・新谷線が廃止となる場合は、「赤谷六軒町線」を増便する方向で登下校便を確保する。あわせて、令和元年10月以降の運行ダイヤについては、事業者及び阿賀町と協議の上、阿賀町の代替運行との乗り継ぎに十分配慮して設定する。</p>
-----------	---

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	優先的に実施 						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事業	6-2	交通結節点の待合環境の整備と乗継ぎダイヤの見直し〔定住自立圏連携事業〕
取組内容	<p>・聖籠町の循環バス「エコミニバス」は、新発田市の大型商業施設が並ぶ「コモタウン」に午前午後1便ずつ乗入れており、そこで新発田市の市街地循環バス「あやめバス」に乗り換えることで両市町住民の通院や通学などの移動を円滑にしていますが、利用者の待合環境や利用環境は十分とは言えません。そのため、定住自立圏構想の取組として、利用者の一層の利便性向上を図るため、結節点である「コモタウン」にバス待合所を設置し、適切な維持管理を行うとともに、実態把握を行い、乗継ぎダイヤの見直しを行います。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
未実施	

取組における課題等	<p>・連携市町をつなぐ事業者バス路線の見直しにより、連携事業の方向性について再検討が必要となっている。</p> <p>【胎内市(中条線)】 連携事業として掲げていた胎内市デマンド交通「のれんす号」の紫雲寺地域への延伸については、費用対効果の面から事業内容の見直しが必要となった。</p> <p>【聖籠町(次第浜線)】 次第浜線を廃止し、聖籠町の循環バス「エコミニバス」の運行内容を見直し、定住自立圏連携事業で対応する方向について提案したものの、バス購入等に要する町負担が大きいことから実施には至らなかった。</p> <p>・各市町においては、それぞれの公共交通の見直しを最優先に行う必要がある。</p>
-----------	--

今後の取組の方向性	<p>・各市町の公共交通の見直しの進捗状況をみながら、当該事業の具体的な検討を行うこととし、当面は、それぞれの状況等を共有するため、毎年度、意見交換を継続する。</p>
-----------	--

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。								
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5		
計画 (H29見直し)			随時実施	→			見直し実施	→	
見直し後				随時実施	→			見直し実施	→

新発田市地域公共交通網形成計画
進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事業	6-3	広域的な公共交通ガイドや位置情報システムの検討
取組内容	<p>・公共交通ガイドや位置情報システムといった情報発信の取組については、運行主体や自治体により情報のアクセス先や情報量が異なることや、相互の連携が図られていないことから、広域的な移動における利便性が低くなっています。</p> <p>・近隣市町も含めた地域全体の公共交通網の活性化や、市内外の移動の円滑化を図る観点から、位置情報システムや公共交通ガイド等の情報発信の取組について、広域的な実施を検討します。</p>	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
未実施	

取組における課題等

今後の取組の方向性
・定住自立圏構想の推進や広域的な公共交通の見直しの状況に応じて検討を行う。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画			広域的な公共交通の見直しに応じて検討				
見直し後			広域的な公共交通の見直しに応じて検討				

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事業	6 - 4	羽越本線の高速化に向けた要望活動の実施やシンポジウムの開催支援
取組内容	・羽越本線の高速化促進や羽越新幹線の整備に向けて、周辺市町村と連携し、国や鉄道事業者等に対する継続的な要望活動や、各沿線地域との連携を強化する羽越本線高速化シンポジウム等の開催支援により、新発田駅を拠点とした沿線地域の広域的な交通ネットワーク形成の強化を図り、地域の活性化につなげていきます。	

平成30年度取組実績	具体的に記載してください。
○羽越本線高速化促進新潟地区同盟会参画事業 ・羽越本線高速化促進大会により、白新線・羽越本線の高速化に向け、JR東日本本社、関係省庁等へ要望活動を実施した。 ・羽越本線高速化シンポジウムを秋田県・山形県の3地区共同で開催し、沿線地域の連携強化を図った。 ○新潟県鉄道整備促進協議会 ・JRに対する利便性向上等に関する要望活動を実施した(白新線・羽越本線高速化等)	

取組における課題等
平成30年度新潟駅連続立体交差事業第1期開業により新幹線・在来線同一ホーム乗り換えが実現し、利便性向上や利用圏域の広がりを期待される中、市では白新線の複線化、県では羽越新幹線実現への動きもある。 しかし、JR東日本に対し毎年要望活動等を行っているが、乗降客数の増加を前提条件とし、進展が見られない。また、人口減少の中、市も乗降客数増加に訴求する打開策が見い出せない。

今後の取組の方向性
・羽越本線高速化促進新潟地区同盟会参画事業では、同盟会事務局(新潟市)に対して活動内容の提案などの働きかけを行う。 ・白新線の複線化、羽越新幹線実現に向けた乗降客数増加のための取組みとして、交流人口・関係人口の増加を図るとともに、白新線沿線への県立施設誘致を推進する。

実施スケジュール	計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。						
年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	 随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事業	6 - 5	広域交通維持事業(県内都市間高速バス) [連携中枢都市圏連携事業]
取組内容	<p>・県内都市間高速バスは、定時・速達性に優れ、地域間の通勤・通学等に欠くことができない移動手段ですが、自家用車の普及など高速バスを取り巻く情勢及び事業者の厳しい経営状況から減便・廃止が常態化しています。そのため、高速バスの利用状況把握や利用促進策に関する調査、検討を実施し、関係市町と連携して、高速バスの維持や代替手段の確保に向けた協議を行います。</p>	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

新潟広域都市圏は、平成28年12月16日に連携中枢都市宣言を行い、平成29年3月28日に連携協約を締結、同日に都市圏ビジョンを公表した。連携中枢都市は新潟市で、連携市町村は三条市、新発田市、燕市、五泉市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、弥彦村、田上町、阿賀町(6市3町1村)、圏域人口は平成31年4月1日現在で1,228,253人となっている。
本事業を含む地域公共交通に関連する連携事業について、平成30年7月に新潟広域都市圏連携事業(地域公共交通関連)として意見交換会を行った。

取組における課題等

当市に関連する県内都市間高速バスであった村上線が平成28年9月末で廃止されたため、実質的な連携事業はない。

今後の取組の方向性

県内都市間高速バスについて、利用状況を把握した上で、利用者の移動実態に合わせた運行形態を確認し、利用促進策を講じるとともに、事業者による自主運行が厳しい場合、代替策の検討及び行政による運行や支援を連携して行う。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							

新発田市地域公共交通網形成計画 進捗管理シート

計画の位置付け		
目標	3	まちの変化に応じた公共交通
施策	6	広域的な交通ネットワークの形成強化
事業	6-6	生活交通維持事業(地域間幹線系統バス路線) [連携中枢都市圏連携事業]
取組内容	<p>・複数市町村をまたがり運行されているバス路線は、地域間の通勤・通学・通院等、地域住民の日常生活に欠かせない路線です。国や県の支援を受けながら維持を図っていますが、利用者の減少や事業者の厳しい経営状況から現在のサービスレベルを維持することが困難になってきています。そのため、利用状況把握や利用促進策に関する調査、検討を実施し、関係市町と連携して、生活交通の維持確保に向けた協議を行います。</p>	

平成30年度取組実績

具体的に記載してください。

新潟広域都市圏は、平成28年12月16日に連携中枢都市宣言を行い、平成29年3月28日に連携協約を締結、同日に都市圏ビジョンを公表した。連携中枢都市は新潟市で、連携市町村は三条市、新発田市、燕市、五泉市、阿賀野市、胎内市、聖籠町、弥彦村、田上町、阿賀町(6市3町1村)、圏域人口は平成31年4月1日現在で1,228,253人となっている。

本事業を含む地域公共交通に関連する連携事業について、平成30年7月に新潟広域都市圏連携事業(地域公共交通関連)として意見交換会を行い、情報共有を図った。

取組における課題等

当市に関連する地域間幹線系統バス路線は、木崎線(万代シティ～新発田営業所)で、今現在の利用状況から、直ちに国庫補助の要件を充足しなくなるなどの、路線の維持に向けた課題等はないが、引き続き事業者や関係市町との情報共有等に努めていきたい。

ただし、利用状況の把握にあたっては、地域間幹線系統バス路線が事業者の営業路線のため、情報の入手が困難な状況にあり、事業者との密接な連携が必要となる。

今後の取組の方向性

地域間幹線系統バス路線における利用状況を把握した上で、利用者の移動実態に合わせた運行形態を確認し、連携して利用促進策や維持活性化策を講じる。

実施スケジュール

計画時から変更等がある場合は、下段「見直し後」欄に入力してください。

年度	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
計画	随時実施						
見直し後							